

## 明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話補遺

吉見 孝夫

### 一 イソップ寓話を掲載する明治期の寓話集等

日本におけるイソップの受容過程を考究するための基礎資料として、先に明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話を拾い集めた結果を「明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話」(『イソップ資料』第一二号、二〇一九年一月一六日)と題して公表した。発表後それに漏れた事例を多く見出したので、ここに補いたい。

前稿を成すに当たっては、迂闊にも下記の文献を見落としていた。

・府川源一郎(二〇一四)『明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究 リテラシー形成メディアの教育文化史』(ひつじ書房、二〇一四年二月一日)

この一二〇〇ページに及ぶ大著は、数多くの子ども読み物に言及している。当然、これらの中にはイソップ寓話も収められている。小論で取り上げる文献の多くはこの府川の著書によって存在を知ったものである。

以下に筆者が調べた範囲で判明した、イソップ寓話を掲載する寓話集等(イソップ寓話集を除く)を時系列で示す。太陽暦が採用されたのは明治六年一月からなので、

明治五年までは旧暦の月である。明朝体は前稿で扱った文献、太字明朝体はこの小論で明らかにする文献である。各文献の略記を各項の頭に付す。なお、ここにいう「寓話集等」とは寓話集に限らず一般図書を含んでいる。正確で誤解を招きやすいとは承知しているが、前稿の「補遺」であることを明示するために、敢えて使用した。

### 明治

二年(一八六九)

渡部温『経済説略』

三年(一八七〇)

小幡篤次郎『生産道案内』(五月)

五年(一八七二)

福諭・福沢諭吉『童蒙教草』(六月)

六年(一八七三)

上羽勝衛纂『童蒙読本』(三月)

沢井・沢井登平訳『修身小学』(五月)

山義・山本義俊訳『修身学訓蒙』(五月)

福英・福沢英之助訳『初学読本』(五月)

省・省己遊人『西洋稚児話の友』(八月)

今・今井史山『西洋童話』(八月)

是・是洞能凡類著『童修身心廻鏡』(八月)

加1・加地為也『西洋教の杖』(九月)

深・深間内基訳『幼教の梯』(十一月)

室・室賀正祥著『造花誌』(十二月)

七年(一八七四)

西茂・西村茂樹『經濟要旨』(六月)

中川・中川将行訳『泰西世説』(十一月)

九年(一八七六)

加2・加地為也訳『西童蒙訓』(十二月)

一〇年(一八七七)

小幡2・小幡篤次郎『經濟入門 一名生産道案内』(六月)

月)

遠・遠藤宗義他合輯『小口授要説』前編(十二月)

一五年(一八八二)

山名・山名留三郎他合輯『錦絵修身談』(三月)

一九年(一八八六)

池・池田亀蔵『修身勸』(五月)

二〇年(一八八七)

阿・阿部弘蔵撰『修身説話』(三月)

青1・青木富士『通俗絵入学芸独案内』(五月)

青2・青木富士『日本西洋昔噺』(五月)

川1・川田孝吉『小学生徒教育昔噺』(七月)

生・生田万三編『和漢西洋修身稚話』(九月)

綾・綾部乙松『小学生徒修身教育昔話』(一〇月)

石・石井音五郎・石井福太郎編纂『尋常修身口授教案』

(一〇月)

二一年(一八八八)

大1・大館利一『修身之教』(五月)

横・横井命順・秋原捨五郎編輯『小修身教授案』(明治二一年六月)

治二一年六月)

日・日置岩吉『小学生徒修身教育噺』(六月)

大2・大館利一『西洋日本昔噺』(九月)

二二年(一八八九)

川2・川田孝吉編『いろいろたなか教育噺 六』(四月)

杉・杉山文悟編『幼年宝玉』(九月)

江1・江東散史編『小生徒教育修身の話』(九月)

斯1・斯波計二著『教育子供演説』(十二月)

吉1・吉沢富太郎著『幼修身のをしへ』(十二月)

西森1・西森武城著『通俗教育演説』(十二月)

二三年(一八九〇)

吉2・吉沢富太郎編輯『家庭修身をしへ草』(一月)

斯2・斯波計二著『智慧之競争子供演説』(三月)

和・和田万吉『家庭教育修身はなし』(七月)

沢久・沢久次郎著『修身教育宝之友』(一〇月)

二四年(一八九一)

黙・黙言道士著『修身教育為めになる話』(四月)

篠1・篠田正作著『少年教育子供演説』(五月)

西野1・西野正勝『尋常小学生徒教育』(七月)

大3・大館利一『児童教育知恵宝』(七月)

木・木原季四郎『子供のをしえ』(八月)

- 森順…森本順三郎著『児童教話図会』(八月)  
 三…三浦源助編纂『学小修身全書』(九月)  
 小池…小池清『通俗修身談』(一〇月)  
 森園…森本園二編纂『新編 小学修身事実全書』(一〇月)  
 西森2…西森武城『面白叢談』(十一月)  
 二五年(一八九二)  
 岡…岡本可亭編纂『幼年 文学知識之金庫』(二月)  
 西寅1…西村寅二郎『教育修身談』(一月)  
 西野2…西野正勝『尋常小学生徒修身話』(二月)  
 篠2…篠田正作著『少年 教育修身実話』(二月)  
 篠3…篠田正作著『少年 教育子供演説指南』(一月)  
 佐…佐藤治郎吉『少年書類新伊蘇普物語』(三月)  
 鎌…鎌田淵海『少年仏教修身はなし』(三月)  
 教散…教育散史編輯『修身 教育をしゑ草』(三月)  
 森下…森下亀太郎『家庭教育日本修身談』(四月)  
 西寅2…西村寅二郎発行『修身立志談』(五月)  
 秋…秋元政『教育幼稚の宝』(五月)  
 田…田中鎌太郎編『家庭 修身教育はなし』(五月)  
 江2…江東散史編『教育 修身の鑑』(一二月)  
 獅…獅虫寛慈著『知育 德育修身稚話』前編(一二月)  
 二六年(一八九三)  
 平…平井美津編『修身譚』(二月)  
 森江…森本江南著『少年 文学動物園』(六月)  
 この頃坪内雄蔵『英文評釈』か。  
 二七年(一八九四)  
 辻…辻本三省著『家庭 教育修身少年美談』(三月)  
 山誉…山本誉治著『家庭 教育修身書』(一二月)  
 二八年(一八九五)  
 小島…小島安太郎著『幼年 教育修身のすゝめ』(二月)  
 二九年(一八九六)  
 黙…黙言道士著『少年教育はなし』(三月)  
 西寅3…西村寅二郎『教育修身美談』(三月)  
 三二年(一八九九)  
 堀…堀三友・秋野茂吉『伊蘇普実伝』(二月)  
 三三年(一九〇〇)  
 伴…伴成高著『子供演説』(九月)  
 三四年(一九〇一)  
 下…下田歌子著『少女 文学お伽噺教草』(八月)  
 三五年(一九〇二)  
 坪…坪内雄蔵『文学叢書 英詩文評釈』(六月)  
 三七年(一九〇四)  
 教資…教育資料研究会纂訳『教授 材料話の泉』(三月)  
 三八年(一九〇五)  
 東1…東基吉『家庭童話母のみやげ』(一〇月)  
 四〇年(一九〇七)  
 東2…東基吉『教育童話子供の楽園』(四月)  
 少伽…「少年お伽噺」シリーズはこの頃からか。  
 四二年(一九〇八)  
 明伽…「明治少年お伽噺」シリーズはこの頃からか。  
 絵伽…「絵入日本お伽噺」シリーズはこの頃からか。  
 四三年(一九一〇)  
 小蝶…小蝶山人『少年お伽演説』(六月)

馬…馬場直美『お伽百題』(一〇月)

中村…中村徳助著『世界新お伽』(一二月)  
四四年(一九一一)

天…天籟山人『新お伽十八番』(二月)

鈴…鈴木源四郎『少年教育修身はなし 動物の巻』(三月)

## 二 掲載書の概要と掲載話

前節に示したイソップ寓話掲載の寓話集等の概要と、掲載話のタイトルを示す。寓話の中には、改作、翻案の程度が甚だしく、一読してはイソップと無縁に見えるものもあるが、イソップに基づく判断される例はここに採った。イソップ寓話の範囲は、Ben Edwin Perryの *Aesopica* (University of Illinois Press, 1952) に含まれるものの他は、明治期までに日本に入っていた以下の文献に所収の寓話、イソップ伝に限った。

『エソポのハブラス』(ESOPO NO FABVLAS)

仮名草子『伊曾保物語』

Robert Thom『意拾喻言』

Thomas James: *Aesop's Fables*

George Fyler Townsend: *Three Hundred Aesop's Fables*

Charles Stickney: *Aesop's Fables*

なお、当該の寓話集等に、寓話番号等の検索の手がかりがない場合は、該当箇所の丁付、ページをタイトルの下に「3ウ」「15ペ」のように記した。タイトルの下の括弧内に「(A112)」等としたのは *Aesopica* の寓話番号

である。「アリとキリギリス」で知られる寓話に該当するのは *Aesopica* では二話あり、二つの番号(112・373)を併記した。挿絵のある場合は、括弧内に「(絵)」と記した。*Aesopica* になくてイソップ寓話と認めた寓話は、仮に二桁の番号を付け、括弧内に「(08)」のように全角の算用数字で示した。仮の番号とそれに対応する寓話内容は三節の「対照表」に記した。

上…上羽勝衛纂『童蒙読本』(明治六年三月)

児童向けの読み物。「自序」に「西国読本」を「抄訳」したとある。この「西国読本」は、府川(二〇一四)に拠れば、アメリカの McGuffey's new eclectic readers などである。漢字平仮名交じり文語体の和装本。惺々軒刊、売弘所として東京の岡田屋嘉七の名が挙がっている。

上羽勝衛は肥後宇土藩士の家に生まれ、維新後熊本洋学校教授に就く。小学教科書類を多く編纂している。本書、上羽については府川(二〇一四)一〇八ページ以下が詳しい。

イソップ寓話を五話掲載する。

- 1 「第一章」(03)
- 2 「第二章」(05)
- 3 「第三章」(A210)
- 4 「第四章」(A224)
- 5 「第五章」(A305)

沢井…沢井整平訳『修身小学』(明治六年五月)



凡例に「原本ハ英国ノ「チャムブル」氏の編述ニシテ彼邦一千八百七十年ノ刊行ニ係ル」とあり、府川（二〇一四）によれば、福沢諭吉の『童蒙教草』の原本でもある Chambers の *The Moral Class-book* の抄訳である。上下二巻二冊。漢字片仮名交じり文語体の和装本。刊記に「著述蔵版 大阪沢井寛平」とあるので、扉にある「育徳堂」は沢井自身を指すのであろう。「弘通書肆」として大阪の「前川善兵衛」「吉岡平輔」の名があり、大阪周辺で流通したものと思われる。以下のイソップ寓話を載せる。本書については府川（二〇一四）一三四ページ以下が詳しい。

沢井の事跡はよくわからないが、明治一九年刊行の書に「大阪中学校教諭」とあるのを府川（二〇一四）が明らかにしている。

- 1 第一 禽獸歎待「○童子及蛙ノ話」（05）
- 2 第四 勤勞「○農夫其子ニ遺訓シテ職業ヲ厲マセシ事」（A 42）
- 3 第五 自勉自頼「○一車丁「ヘルキュール」に助力ヲ願ヒタル話」（A 291）
- 4 第五 自勉自頼「○雲雀の話」（A 325）
- 5 第二十六 誠実「○虚言ニ由テ狼害ヲ取リシ僅」（A 210）

山義：山本義俊訳『修身学訓蒙』（明治六年五月）

凡例に「此ノ書ハ法朗西ノ京都巴勒ニ於テ一千八百七十三年即チ我が日本二千五百三十三年ニ刊行セシ原名勸善言行小録ナル者ニシテ修身学ノ一端ナリ」、跋に「仏人花盛氏之所作」とある。原本であるフロリー『勸善言行小録』の原名は不明。各国の君主などの言行を載せる。上下二巻二冊。漢字片仮名交じり文語体にほぼ総ルビを付した和装本。東京の弘成堂刊。府川（二〇一四）一四二ページ以下が詳しい。以下のイソップ寓話を載せる。タイトルが長文で、ほぼ要約になっている。

山本義俊は『泰西修身論』（明治六年）、『泰西修身童子訓』（明治八年）といった修身書も刊行している。

1 卷之上「○報恩 ○第十九章 羅馬ノ奇覽会ニ罪人ヲ以テ猛獸ト闘ハセシヲアリ此ノ時又タ罪人ナル「アンドロクレース」ト云モノ獅子ト闘ウ番ニナリシカバ忽チ掴ミ殺サルベキヲ此ノ獅子旧恩ヲ思テ却テ「アンドロクレース」ヲ勞リケル程ニ帝ノ尋ニ遇テ悉ク来由ヲ答シカバ人獸トモニ赦免ニ遇ヒ猛キ獅子世ノ犬ノ如ク先ニ立テ「クレース」ヲ導行シ珍談ノ事」（A 563 a）

福英：福沢英之助訳『初学読本』（明治六年五月）

府川（二〇一四）によれば、*Sargent's Standard Reader* や *Wilson Reader* などから題材を選んで訳出し、一書としたもの。漢字片仮名交じり文語体の和装本。見返しに「福沢英之助版」とあり、私刊本である。府川（二〇一四）九九ページ以下が詳しい。これに狼少年の話として

知られるイソップ寓話がある。Wilson Reader の The Boy and Wolf が典拠であることを府川（二〇一四）が指摘している。福沢には George Fyler Townsend の Three Hundred Aesop's Fables を抄訳した『訓蒙話草』（明治六年）がある。これにも狼少年の話があるが、当然ながら原文が別なので訳文も異なる。ただし原文から離れた教訓の言葉は類似している。

福沢英之助（？～一九〇〇）は中津藩出身で本名和田慎次郎。慶応二年（一八六六）の幕府の留学生としてイギリスに渡る際に同郷の福沢諭吉の弟と称して福沢姓を名乗った。

1 「童子及ヒ狼ノ事」 3ウ（A 210）

### 是…是洞能凡類著『修身心廻鏡』（明治六年八月序）

著者名は「ぜどうのぼる」という。見返しには「是洞能凡類著」とあるが、本文中には「撮訳」とある。「ウエーランドの理論部分にコウデリーの本からいくつかのエピソードを実例として加えた上にさらに『経済説略』の中のたとえ話が添えられている」と府川（二〇一四）は指摘する。「ウエーランド」とは Francis Wayland の Elements of Moral Science ‘コウデリーの本」とは Cowdery の Elementary Moral Lessons である。『経済説略』とは渡部温が明治二年に出版した Richard Whately の Easy Lessons on Money Matters の英語のままの翻刻である。二卷（七篇）二冊。漢字平仮名交じり文語体の和装本。東京の一貫堂刊。『経済説略』にある以下のイソップ寓話

の引用が訳されている。

是洞は英語塾を開き、英書の翻訳などの活動をしている。府川（二〇一四）一三八ページ以下が詳しい。

1 第七篇 政府の由て起るゆゑんの理「〇胃腑と四肢との説話」（A 130）

### 深…深間内基訳『幼教の梯』（明治六年十一月）

書名の「梯」は「はし」と読ませている。『日本教科書大系』などは、姓名を「深間・内基」とするが、「深間内・基」が正しい。府川（二〇一四）は、Cowdery の Elementary Moral Lessons の抄訳に「他から取材した教編の寓話を交えて構成した書物」という。二卷二冊。漢字平仮名交じり文語体にほぼ総ルビを付けた和装本。発行書林として東京の「北畠茂兵衛、三家村佐平、山中市兵衛、稲田佐兵衛、稲田政吉」の名を挙げる。府川（二〇一四）一三七ページ以下が詳しい。以下の六話がイソップに由来する。

深間内基（一八六四～一九〇一）は慶應義塾を出、高知立志社、宮城師範学校の教員を勤めている。J. S. ミルの The Subjection of Women を『男女同権論』の名で訳したことで知られる。

1 第四章 君子の勇無<sup>レ</sup>他在<sup>二</sup>見<sup>レ</sup>義<sup>一</sup> 則<sup>レ</sup>端然<sup>二</sup>為<sup>レ</sup>之<sup>一</sup> 而已<sup>二</sup>「ネットル」草人を刺す事<sup>一</sup>（02）

2 第十二章 人世<sup>レ</sup>須<sup>レ</sup>要<sup>レ</sup>存<sup>二</sup>相<sup>一</sup> 愛<sup>レ</sup>相<sup>レ</sup>恵<sup>レ</sup>之<sup>一</sup> 情<sup>一</sup>

3 第十三章 世間最大之捷勝無<sup>レ</sup>他在<sup>レ</sup>抑<sup>二</sup>制<sup>一</sup>己之心

情「黄金の玉子を生む鵝鳥の事」(A 87)

4 第十五章 須要行因於誠「蛙の水を求むる事」(A 43)

5 第十五章「雲雀雛を養ふ事」(A 325)

6 第十五章「燕預じめ難を避くる事」(A 39)

### 室賀正祥著『造花誌』(明治六年十二月)

書名は「つくりはなし」と読む。見返しには「室賀正祥著」とあるが、本文中では「輯」とする。「つくりはなし」つまり寓話の類を七話収録する。いずれも英語のリーダーにある話だが、直接には何を典拠としたのかは不明。漢字平仮名交じり文語体に総ルビを付けた和装本。筆者が見た国会図書館蔵本の見返しには「明治六年十二月発兌」とあるが、横浜国立大学蔵本には「明治六年十一月発兌」とある由である。出版地、出版社は不明だが、横浜国立大学蔵本には「一喜斎蔵版」とあるという。府川(二〇一四)一二三ページ以下が詳しい。

室賀正祥については不明とせざるを得ないが、幕末に老中職にあつて井伊直弼と共に安政の大獄を進めた間部詮勝の息子に同姓同名の者がいる。

イソップ寓話が三話載っている。

1 「全体の機関胃腑の保護に依て運動力を有つ」

1 才 (A 130)

2 「時を覚つて雲雀巢棲を退く」 4 ウ (A 325)

3 「己身を忘れて痴犬肉片を失ふ」 8 才 (A 133)

### 中川将行訳『泰西世説』(明治七年二月)

「緒言」に「此書原本ハ千八百七十三年英国チエムブルス氏ノ刊行ニ係リ書名ヲ「シヨルト、ストーリー」と云フ」とあるが、Chambersの *Short Stories* が何かは不明。児童向けに実話や寓話を百余り収録する。漢字片仮名交じり文語体の和装本。見返しに「東京書肆 種玉堂 発兌」とある。府川(二〇一四)一五八ページ以下が詳しい。

中川将行(一八四八〜一八九七)は旧幕臣で徳川家の沼津兵学校で学んだ後、海軍で教官を務める。数学教育に大きな功績を残している。沼津兵学校には教官に渡部温がいた。イソップに関連するというと、渡部は英語の教科書として Thomas James の *Aesop's Fables* を用いている。中川はこれを受講していたかと思われる。

以下のイソップ寓話を含む。

1 卷之一「雄鶏ニ宝玉ノ譬」 4 才 (A 503)

2 卷之一「天ハ自ラ助クル裳のヲ助ク」 22 ウ (A 291)

3 卷之二「漁翁小魚ヲ捕フ」 2 才 (A 18)

4 卷之二「恵ヲ得ント欲セバ先ツ他人ヲ恵メ」 3 ウ (A 235)

5 卷之二「廬ヲ貸シテ堂ヲ取ラル」 5 才 (24)

6 卷之二「老鼠猫ヲ笑フ」 15 才 (A 79)

7 卷之二「蠅児母ニ驕ル」 19 才 (A 80)

8 卷之二「難ニ遭フテ苟モ免ル、勿レ」 20 才 (A 65)

### 加2…加地為也訳『西童蒙訓』(明治九年十二月)

加地の『西洋教の杖』（明治六年九月）の同版改題本。

一部改刻されている。『西洋教の杖』は加地の「纂輯」とあったが、こちらは中村正直関 加地為也訳」とする。

新たに中村の「序」を加える。東京の珊瑚閣発行。元の三卷三冊を乾（卷一）坤（卷二・三）の二冊本に改める。

漢字平仮名交じり文語体の和装本。「凡例」に「此書は米田サアゼント氏教訓書を主として旁ら諸家の書を探し勸懲寓する要件を撮訳し努めて簡約に従ひ童蒙の見聞に備ふ」とある。「サアゼント氏教訓書」は不明。また「巻中略画を雑ゆる者は童蒙をして倦らしめんことを要すればなり」と、多くの話に挿絵を付ける。西洋を舞台とした絵柄から推して原本の挿絵を模したものと思われる。画家の名は明示されていないが、加地が画家であるから自身で描いたのではなからうか。全五四話中以下の八話がイソップ由来である。

加地為也（？）一八九四）は渡米経験を持つ洋画家。

1 卷之一「第十六 朋友に信なくんば非ざる話」（A 65）

（絵）

2 二の巻「第一 人利の為に汚名を受し話」（A 67）（絵）

3 二の巻「第四 狼と小羊との話」（A 155）（絵）

4 二の巻「第十三 物毎につき思慮分別すべき話」（A

43）（絵）

5 卷之三「第五 父の遺命を遵守し富を得たるの話」（A

42）

6 卷之三「第六 己れの分限を知らずして患害を受けた

る話」（A 91）（絵）

7 卷之三「第八 友を撰むは我身を安然にする話」（A 194）（絵）

8 卷之三「第十七 己の分に安んじ人を羨むまじき話」（A 230）（絵）

遠・遠藤宗義・栗田智城・高原徹也合輯『小口授要説』

前編（明治一〇年一二月）

明治初期にあった教科「修身口授」の教師用指導書。

口授においては、児童は教科書を持たない。この教師用に基づいて授業がなされるので、これを教科書と見ることもできるが、殆ど教訓例話集の様相を呈するので、この小論では寓話集等を含めた。前後編二冊。漢字片仮名交じり文語体の洋装本。前編に「修身談」を一八四話収録する。後編（小川亮・高原徹也合輯）は「養生談」。前篇にイソップ寓話が三三話ある。出版社（者）に関しては前篇見返しに「内藤書屋」、後編奥付に「山梨県西山梨郡甲府」の「内藤伝右衛門」とあるだけだが、国会図書館の書誌情報には「甲府」の「温故堂」とある。

遠藤宗義（一八五六―一九四〇）は酒田に生まれ、明治九年に新潟師範学校を卒業する。山梨県で教員をし、その後は愛媛県や滋賀県の尋常師範学校長を務めている。この書は山梨時代の二〇歳頃の仕事である。栗田智城は『小学文題新編』（明治一年）という学習書を出しているのが知られるだけである。高原徹也については一切不明。

1 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第一 兎ト獵犬ノ

- 話」(A 331)
- 2 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第二 犬生皮ノ肉ヲ食ハントシセ話」(A 135)
- 3 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三 蟻ト鳩ノ話」(A 235)
- 4 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第五 山鳥ノ無情ナル話」(A 265)
- 5 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第六 蛙悪計ヲ企テシ話」(A 384)
- 6 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第九 驢馬ヲ誑リシ狐ノ話」(A 191)
- 7 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第十 蝦蟇ガ子供ニ諭シタル話」(O 5)
- 8 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第十三 鹿山葡萄ニ隠レシ話」(A 77)
- 9 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第十五 獅子ト熊ト屍骸ヲ争ヒシ話」(A 147)
- 10 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第十七 獅子病氣ノ話」(A 142)
- 11 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第十八 麦畑ノ雲雀ノ話」(A 325)
- 12 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿一 仮着シタル鳥の話」(A 472)
- 13 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿二 犠牛ト耕牛ノ話」(A 300)
- 14 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿三 黄金ヲ生ム鷺鳥ノ話」(A 87)
- 15 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿五 御殿鼠ト田舎鼠ノ話」(A 352)
- 16 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿六 蝦蟇ノ共和政治ノ話」(A 44)
- 17 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿七 蝦蟇壳菓ノ話」(A 289)
- 18 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第廿八 馬ト驢馬トノ話」(A 181)
- 19 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十 塩ヲ負ヒタル驢馬ノ話」(A 180)
- 20 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十三 ト狼ノ話」(A 97)
- 21 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十四 乗馬ト驢馬ノ話」(A 357)
- 22 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十五 蟻ト鼠ノ話」(A 112・373)
- 23 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十七 ト戦争ノ話」(A 566)
- 24 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十八 鴉餌ヲ狐ニ奪ハレシ話」(A 124)
- 25 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第三十九 獅子ト鼠ノ話」(A 150)
- 26 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第四十 鶏ト犬ト狐ノ話」(A 252)
- 27 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第四十一 兎ト亀

ト競走セシ話」(A 226)

28 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第四十二 狐ト山番ノ話」(A 22)

29 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第四十三 鴉渴シテ発明シタル話」(A 390)

30 修身談第一課 禽獸ノ所行ヲ挙ク「第四十四 犬牛肉ヲ落セシ話」(A 133)

31 修身談第二課「第一 狡猾ナル兒童ノ話」(A 67)

32 修身談第二課「第十 儉約ナル老婆ノ話」(A 55)

33 修身談第二課「第三十五 兒童ノ栗ヲ取ル話」(03)

山名・山名留三郎・辻敬之・増川蚶雄編輯『錦絵修身談』(明治一五年三月一日版權免許)

修身教科書また修身読み物の一つ。「緒言」に「本文にも図画を挿入し」「行文は努めて平易を主とし」とあり、児童向けの工夫をこらしている。絵は月岡芳年。芳年は当時既に絵師として名をなしている。全六巻六冊。漢字平仮名交じり文語体に総ルビの和装本。東京の普及舎刊。府川(二〇一四)九八〇ページ以下が詳しい。イソップ寓話に基づく二話が載るが、動植物がしゃべるといった寓話性は排除されている。絵はない。

筆者が見たのは国会図書館蔵本と筑波大学蔵本で、同版であるが、前者には「緒言」がないなど若干の相違が見られる。

山名留三郎は漢学者で『資治通鑑』に訓点を施したことで知られる。陸軍士官学校教授。辻敬之(？)一八九

二)は明治一〇年に東京師範学校を卒業。明治一五年に普及舎を設立し、教科書など教育書を多く出版する。

増川蚶雄は広池千九郎の『新編小学修身用書』(明治二一年)の校閲者となっているが、他は不明。

1巻一「(四)貪婪(左傍ルビムサボル)なる者は反て利を得ず」(03)

2巻二「(五)旅人楓樹の下に憩ふ」(A 175)

阿・阿部弘蔵撰『修身説話』(明治二〇年三月)

中根淑閑。児童向けに教訓的な話を日本、中国、ヨーロッパから集めて一書としたもの。実話も寓話もあり、およそ四八〇話に及ぶ。八巻八冊。漢字平仮名交じりで、「ます」を使った口語体の和装本。東京、原亮三郎の金港堂刊。以下の五二話がイソップ由来である。

阿部弘蔵は旧幕臣で、開成所の教授を務める。彰義隊に加わりその名付け親だという。維新後は慶應義塾に入り、その後文部省に出仕する。阿部は金港堂から『小学読本』という文語体の読本教科書を三年前の明治一七年に出している。以下の37・40・42・45・51・52の寓話は、この読本教科書にもある。しかし、文体の相違だけでなく、同じ話でも両者の文章は大きく異なる。

1巻一「第二章 獅子のよい子」(A 257)

2巻一「第六章 小鼠の食ひすこし」(A 24)

3巻一「第十三章 正直な大工」(A 173)

4巻一「第十四章 不正直な大工」(A 173)

5巻一「第二十二章 小犬の注意」(A 330)



6 卷一	「第二十七章 狐と鶴」(A 426)
7 卷一	「第三十章 馬のよしあし」(A 237)
8 卷一	「第三十一章 顔と心」(A 499)
9 卷一	「第三十四章 牙を磨ぐ野猪」(A 224)
10 卷一	「第三十五章 たばねた薪」(A 53)
11 卷一	「第三十七章 犬の朋輩」(A 92)
12 卷一	「第三十九章 犬の後悔」(A 133)
13 卷一	「第四十一章 強情な馬」(A 186)
14 卷一	「第四十二章 旅人と榎木」(A 175)
15 卷一	「第四十四章 亀と兎」(A 226)
16 卷一	「第四十七章 羊かひの童」(A 210)
17 卷一	「第五十三章 狐熊を駁す」(A 288)
18 卷一	「第五十四章 力を出せば車が動く」(A 291)
19 卷二	「第七章 蛙の嘆願」(O 5)
20 卷二	「第八章 鷗鷺の真似をする鴉」(A 139)
21 卷二	「第二十一章 あほうがへる」(A 376)
22 卷二	「第二十四章 鳥の災難」(A 194)
23 卷二	「第二十六章 こぶえた蛇」(A 176)
24 卷二	「第二十七章 かくれた鹿」(A 77)
25 卷二	「第三十二章 毒蛇とやすり」(A 59)
26 卷二	「第三十三章 川を飛ぶ書生」(A 33)
27 卷二	「第三十五章 猿利口」(A 203)
28 卷二	「第三十六章 猿の人真似」(A 203)
29 卷二	「第三十九章 馬の後悔」(A 181)
30 卷二	「第四十四章 豆を振る手」(O 3)
31 卷二	「第四十五章 うつくしい仮面」(A 27)

32 卷二	「第四十七章 恩に報ゆる蟻」(A 235)
33 卷二	「第四十八章 喇叭ふきの生捕」(A 370)
34 卷二	「第五十六章 蛙の不実」(A 384)
35 卷三	「第八章 蟻ときりくす」(A 112・373)
36 卷三	「第十四章 ちゝうり娘」(O 1)
37 卷三	「第十八章 驢馬のしくぢり」(A 91)
38 卷三	「第二十三章 亀の身の程知らず」(A 230)
39 卷三	「第二十四章 農夫の遺訓」(A 42)
40 卷三	「第三十章 あほうがらす」(A 472)
41 卷三	「第三十五章 狐のさかしら」(A 191)
42 卷三	「第三十八章 小鼠の計略」(A 613)
43 卷三	「第四十四章 手足の勤惰」(A 130)
44 卷三	「第四十七章 山番の指さき」(A 22)
45 卷三	「第四十八章 熊の耳こすり」(A 65)
46 卷三	「第五十四章 野羊を失ふ牧者」(A 6)
47 卷三	「第五十五章 蚊と牛」(A 137)
48 卷三	「第五十六章 日と風」(A 46)
49 卷三	「第五十七章 下女の後悔」(A 55)
50 卷三	「第五十八章 盗人のにぎり飯」(A 403)
51 卷四	「第四章 蟻蠅を戒む」(A 521)
52 卷四	「第四章 蝙蝠のふた心」(A 566)

生…生田万三編『和漢西洋聖賢事跡修身稚話』(明治二〇年九月)

二、三の書から「美談嘉行」を記録していたところ、二百余に至ったので、「幼童子女乙夜ノ観ニ供ス」という。漢字片仮名交じり文語体の和装本。適宜ルビを付す。



見返しに「和州書肆 宝文館蔵」とある。宝文館は奈良県葛下郡岡崎村（現大和高田市）の出版社。

生田万三は静岡県出身で、当時は奈良県の小学校教員。奈良に因んでであろう、鹿友散人の号を持つ。

1 「エソツブの信」13才（37）

石・石井音五郎・石井福太郎編纂『尋常修身口授教案』巻一（明治二〇年一〇月四日版權免許）・巻二上（明治二〇年一〇月）・巻二下（明治二十一年一月一日）・巻三上（明治二十二年二月）・巻三下（明治二十二年三月一日）・四上（明治二十二年二月）・巻四下（明治二十二年七月三日）

太田忠恕校閲。明治初期の小学校教科「修身口授」のための教師用指導書。各章「題目」「例話」「目的」「問詞」から成る。「問詞」とは児童への発問。例話本文は教訓話なので、ほとんど逸話集、寓話集の様相を呈する。巻一を除き、各巻上下二冊なので、全四巻七冊。漢字平仮名交じりで、「ます」を用いた口語体の和装本。各巻百章で構成され、全四百章。見返しに「文華堂蔵版」とある。文華堂は埼玉県浦和の中村朝次郎による出版書肆。「諸国売捌」として、北は函館、西は西京（京都）、大坂まで多数の書店の名が挙がつており、よく売られたようである。明治二十三年には四巻四冊の洋装本として、長岡の巢枝堂（目黒支店）から再版も出ている。

石井音五郎は巻四下で「石井了一ト改名ス」と広告している。「埼玉県平民」であるこの人物について知るところはないが、大正三年（一九一四）当時の埼玉県第二

与野尋常小学校の校長が「石井了一」であり、同一人物の可能性がある。そうであれば、本書は了一が若い頃の仕事となる。石井福太郎についても不明だが、この二人は『尋常科補習用修身口授教案』（明治二十四年）、『高等小学修身口授教案』（明治二十五年）『家庭教育修身鑑』（明治二十七年）、『家庭教育修身訓』（明治二十七年）、『家庭教育修身実話』（明治二十七年）を共編で出版している。姓を同じくし、共に「埼玉県平民」の出であり、何らかの縁戚があるのかも推測される。校閲者太田忠恕は明治一八〇一九年に宮崎県師範学校校長の職にあった人物。

1 巻一「第十一章 おん は わする べからず 鹿と葡萄の話」(A 77)

2 巻一「第十七章 べんきやう は つね に ゆるみなきを よし とす 兎と亀のかけこの話」(A 226)

3 巻一「第二十章 よくふかき もの は かへって そんな あり 或る子供の話」(O 3)

4 巻一「第二十二章 ようなき もの を このむな鶏が宝玉より麦粒を好みし話」(A 503)

5 巻一「第二十三章 めした の もの なり ともあなどる な 鷹が犬を悪口せし話」(A 98)

6 巻一「第三十三章 てまへ がッて はいふ べからず 狐と葡萄の話」(A 15)

7 巻一「第三十五章 しあげ にほこれ 洞穴より鼠の出し話」(A 520)

8 卷一「第四十二章 むだにいきものをころす  
 な 蛙の話」(A 05)  
 9 卷一「第四十九章 よきとをゑらべ 農夫と  
 鳩の話」(A 194)  
 10 卷一「第五十章 こはきものはおれ やすし  
 杉と葦の話」(A 70)  
 11 卷一「第六十章 むりなことをのぞむな 狐  
 が川の水を飲み尽さうとする話」(A 135)  
 12 卷一「第六十一章 すぐなる つゑには すぐなる  
 かげ あり 蟻と鳩の話」(A 235)  
 13 卷一「第六十四章 すぎたのは およば ないの  
 におなじ 鳥屋が飼鳥に喰はせすぎた話」(A 58)  
 14 卷一「第七十六章 ふだんより ころろ がけ よ  
 情ける狐と勉むる野猪の話」(A 224)  
 15 卷一「第七十九章 なまけるのは くるしみの  
 たね なまける蟬とかせぐ蟻の話」(第八十章 かせ  
 ぐのは らくの たね 前章の続」(A 112・373)  
 16 卷二上「第八章 あしき友と まじはるべから  
 ず 蛙と鼠の話」(A 384)  
 17 卷二上「第四十一章 おだてにのるな 鳥が狐  
 のおだてに乗りし話」(A 124)  
 18 卷二下「第五十三章 人によつてことをな  
 すな 馬と鹿の話」(A 269)  
 19 卷二下「第六十三章 みづから まねぎたる わざは  
 ひは のがれ がたし 蛙の仲間へ五位鷲の大將が  
 来た話」(A 44)

20 卷二下「第六十七章 わうちやくものにはらく  
 ができぬ 横着なる下女の話」(A 55)  
 21 卷二下「第七十章 りこうなものばかを  
 あひてにせぬ 蟬と大樹の話」(A 137)  
 22 卷二下「第七十九章 本なければ末もなし  
 馬と馬丁との話」(A 319)  
 23 卷二下「第八十七章 むくひをあてにする  
 な 犬と鷲の話」(A 156)  
 24 卷二下「第九十五章 人はおうへい ないひつ  
 け よりも やさしき かたをきくものなり  
 風と日と旅人との話」(A 46)  
 25 卷二下「第九十七章 いちのわるきことを  
 する な 犬と馬の話」(A 702)  
 卷四下第八十一章参照。  
 26 卷二下「第九十九章 なすべきことよりほか  
 にきをうつすな 乳売娘の話」(01)  
 27 卷三上「第十三章 知らざるを、知らざるとせよ、  
 猿と鯨の話」(A 73)  
 28 卷三上「第四十六章 災害は、図らざる所より来る、  
 片眼の鹿の話」(A 75)  
 29 卷三上「第五十章 結びし怨みは解け難し、 農夫と  
 蝮蛇の話」(A 51)  
 30 卷三上「第五十六章 深切は、口と行ひと同様にすべ  
 し、 狐と山番の話」(A 22)  
 31 卷三上「第六十三章 死後に敬まはんよりは、寧ろ生  
 前に敬ふべし、 熊と狐の話」(A 288)

- 32 卷三上「第七十章 已れの分限を守れ、獅子へ奉公せし狐の話」(A 394)
- 33 卷三上「第七十三章 他人の不幸を、我が手本とせよ、獅子と驢馬と狐の話」(A 149)
- 34 卷四上「第十七章 灯台もとくらし、裁判所に巢を造りたる燕の話」(A 227)
- 35 卷四上「第二十二章 いやといふことをならへ、狼と羊の話」(A 157)
- 36 卷四上「第二十四章 苦しき時の、神だのみ、久しく病みたる鼠の話」(A 324)
- 37 卷四上「第三十章 益なきことに、心を勞するな、小鳥と鳥指の話」(第三十一章 知りたることは、直ぐに行へ、小鳥と鳥指の続話」(A 627)
- 38 卷四上「第四十四章 自慢は、無智より始まり、失敗に終る、驢馬と獅子の話」(07)
- 39 卷四下「第五十三章 汝より出でたるものは、汝に反る、老婆と医者の話」(A 57)
- 40 卷四下「第五十七章 利口なものは、争ふことなし、二匹の山羊の話」(第五十八章 短気は、損のもと、二匹の山羊の続話」(21)
- 41 卷四下「第六十三章 親切ぶりは、却て他を害す、病鹿を見舞ひたる話」(A 305)
- 42 卷四下「第六十七章 信ぜられざれば、行はれず、羊飼の童子話」(A 210)
- 43 卷四下「第七十六章 おだてにのるな、尾なし狐の話」(A 17)

- 44 卷四下「第八十一章 人の妨げに、なることをするな、犬と馬の話」(A 702)
- 卷二下第九十七章参照。
- 45 卷四下「第八十四章 恥を知らぬものには恥なし、暴犬の話」(A 332)
- 46 卷四下「第八十八章 悪き友には、親しみやすし、鶏と狐の話」(A 562 a の前半)
- 横井命順・秋原捨五郎編輯『小学修身教授案』(明治二一年六月二一日)
- 中村正直。修身の授業の題材となり得る話を編集した教師用書。最初に守るべき訓戒「題目」(例えば「人は互に助け合ふべし」)を掲げ、次に「事実」と題してその例話をいくつか挙げる。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。「発行人」も横井命順、秋原捨五郎である。太田実の叙に「秋原横井二訓導」とあるから、二人は実際に小学校で教育に従事していた者とわかるが、詳細は不明。秋原には児童向け図書がいくつかある。
- 1 「題目 人は互に助け合ふべし 事実○鳩はとと蟻ありの話」49 ぺ (A 235)
- 2 「題目 悪しき友には近ちかよるべからず 事実○馬と買客での話」58 ぺ (A 237)
- 3 「題目 悪しき友には近ちかよるべからず 事実○旅人たびとよ(ママ)熊くまの話」59 ぺ (A 65)
- 4 「題目 戯たはふれにもいきものを殺すべからず 事実○小

童と蛙の話」76へ(05)

5 「題目 勤めざれば福ひを得ず 事実○蟻と蝶の話」88へ(A112・373)

6 「題目 虚言すべからず 事実○(無題)」95へ(A210)

「火事だ」と嘘をつく話に改変。

7 「題目 欲深きは損多し 事実○欲深き犬の話」97へ(A133)

8 「題目 欲深きは損多し 事実○山野羊と飼野羊の話」98へ(A6)

9 「題目 情は人の為めならず 事実○猛獣旧恩を知る」150へ(A563a)

10 「題目 人を欺くものは人に欺かる 事実○狐と鶴の話」170へ(A426)

11 「題目 怠惰は害の母なり 事実○ほねをしみせし馬の話」175へ(A180)

12 「題目 人生の衣食百物は皆勤勞の結果なり 事実○老農の遺訓」181へ(A42)

13 「題目 遠き慮 なき時は必ず近き憂あり 事実○蟋蟀と蜜蜂の話」232へ(A112・373)

14 「題目 弊害は総べて美事に淵源す 事実○鹿の水鏡の話」261へ(A74)

川2…川田孝吉編『いろは教育断』(明治二二年四月一日)

いろはガルタの四八句(いろは四七プラス「京」)そ

れぞれに合う教訓話を収録する。七句ずつで一冊とし、全七冊。漢字平仮名交じり総ルビの和装本。文体は文語、口語入り混じり。出版社は東京の三輪逸次郎のいろは書房。明治二三年には一冊にまとめた再版が出されている。こちらは各話を半丁に収めているので、初版本文を適宜省略している。

川田孝吉は児童向けの啓蒙書をいくつか出している。明治二〇年～二一年に出した『小学生徒教育昔断』にはイソップ寓話が三二話入っている。

1 第六冊「みからでたさび」7ウ(A139)

杉…杉山文悟編『幼年宝玉』(明治二二年九月一六日)

田中登作校。尋常小学三年生以上を対象に家庭で独修することを目的とした修身、理科を中心とした読み物。三〇話を載せる。一部漢字平仮名交じり口語体もあるが、多くは漢字平仮名交じり文語体の洋装本。適宜ルビを付す。東京の普及舎刊。

杉山文悟、田中登作は教科書、教育書をいくつか刊行している。

1 「第十九 乳母と狼」(A158)

江1…江東散史編『小学教育修身の話』(明治二二年九月二八日)

尋常小学生徒向けに修身の一端を正課外の読本として編じたという。もともとは「第一」から「第五」までの五冊本であったようだが、筆者の見た国会図書館蔵本は

合冊されている。漢字平仮名交じり、ほぼ総ルビ文語体の和装本。東京の開文堂刊。

江東散史は本名吉沢富太郎。自ら創設した開文堂から多くの書を出している。なお後述する〈江2〉『教育修身の鑑』と本書の「第三」の途中までは一致する。

- 1 第二「○蟻と鳩の話」6ぺ（A 235）
- 2 第二「○二人の旅人の話」13ぺ（A 569）（絵）
- 3 第四「○村老の諭言」3ぺ（0 5）
- 4 第四「○迂翁の愚直」5ぺ（A 721）（絵）
- 5 第四「○醜美の二童」15ぺ（A 499）

斯1…斯波計二著『修身教育子供演説』（明治二十二年二月二日）

当時「子供演説読み物」が流行していた。この小論で取り上げただけでも、本書以外に〈西森1〉『通俗教育演説』（明治二十二年）、〈篠1〉『少年教育子供演説』（明治二十四年）がある。いずれも子供自身の演説の形を採るところに特徴がある。

漢字平仮名交じり、ほぼ総ルビの「ます」を用いた口語体の洋装本。東京の学友館刊。奥付に「著作発行者 斯波計二」とあるから、学友館は斯波の創設した出版社であろう。奥付で「印刷者 三好守雄」と「発兌元 学友館」の住所が「東京浅草新平右衛門町」と同一なのも注意される。後述の〈黙〉『修身教育為めになる話』では同館の代表者が三好となっている。府川（二〇一四）

一〇二四ページ以下が詳しい。

- 1 「○獅子と蚊の話」55ぺ（A 255）（絵）
- 2 「○鹿の譬話」96ぺ（A 74）

吉1…吉沢富太郎著『稚幼修身のをしへ』（明治二十二年二月三日）

絵の余白に本文を載せる修身読み物。歴史上の実話も寓話もある。各話半丁に収まる。漢字平仮名交じり、ほぼ総ルビ文語体の和装横本。吉沢富太郎自身が代表者である東京の開文堂の刊行。吉沢は江東散史の名でも修身読み物を執筆している。

- 1 「天文者溝に陥る」1ウ（A 40）（絵）
- 2 「尾なし狐の演説」4ウ（A 17）（絵）
- 3 「犬と主人の話」7オ（A 330）（絵）
- 4 「虚吐の児童」8ウ（A 210）（絵）

西森1…西森武城著『通俗教育演説』（明治二十二年二月一日）

「子供演説読み物」の一つだが、演説というより普通の談話口調に近い。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を用いた口語体の洋装本。東京の幹盛堂刊。

西森武城（一八六一〜一九一三）は松山出身の小説家。瘦々亭骨皮道人の名で活躍した。

- 1 「○犬と猫との話し」52ぺ（A 91）
- 2 「○虚言は吐べからず」54ぺ（A 210）

吉2…吉沢富太郎編輯『家庭教育修身をしへ草』（明治二三年一月二八日）

修身読み物の一つ。多く一ページに一話が収まる。絵が付いている場合は見開きで絵一ページ、本文一ページ。全四巻で各巻一〇話、全四〇話を収録する。筆者が見た国会図書館本は各巻ごとにページ付けが施されており、合冊本である。他に所蔵館は見当たらないので、巻ごとに刊行されたのかは明確でない。漢字平仮名交じりほぼ総ルビの洋装本。多くは口語体だが、話によっては文語体もある。おそらく種本の文体を引き継いでいる故に不統一なのであろう。吉沢富太郎自身のもつ、東京の開文堂刊。

1巻二「〇飢たる 蟬が蟻に食を乞ひし話」5ペ（A 112・373）

2巻二「〇呆鴉が孔雀の真似をして追出されたる話」

7ペ（A 472）（絵）

3巻二「〇二人の娘を紺やと傘屋へ嫁に遣し話」9ペ

（A 94）

4巻二「〇飼牛を亡して神を祈りたる話」15ペ（A 49）

（絵）

5巻四「〇狼が羊の方へ手紙を送りし話」11ペ（A 153）（絵）

斯2…斯波計二著『智慧之競争子供演説』（明治二三年三月一日）

前述の（斯1）『修身教育子供演説』（明治二二年）を売り

尽くしたので、その再版出版と同時に演説会を催した、その筆記が本書だという。実際に演説会を開いたわけではあるまい。全五九演説。漢字平仮名交じり総ルビ口語体の洋装本。斯波自身の、東京の学友館刊。

1「〇第二回子供演説開会の旨趣」9ペ（A 390）

本文中のタイトルは「智慧之競争子供演説開会の旨趣」

2「〇他人に対して親切にせよ」15ペ（A 150）

3「〇我が務めを怠る者を戒む」20ペ（A 181）

沢久…沢久次郎著『修身教育宝之友』一・三（明治二三年一月二七日）

全ての話に絵を付した修身読み物。見開き二ページで各話は完結している。全五冊であるようで、そのうち第一、三冊にイソップ寓話がある。漢字片仮名交じり総ルビだが、漢字の使用は少ない。文語体の和装本。出版人は沢久次郎自身。

沢は子ども向けの絵入り時代物などを、自らの手で多く出版している。

1「美人ノ心得」丙ノ8ウ（A 499）（絵）

2「鳥ノ智慧」丙ノ9ウ（A 390）（絵）

3「親ノ遺言」丙ノ11ウ（A 42）（絵）

4「漫ジノ戒」丁ノ10ウ（A 74）（絵）

黙…黙言道士『修身教育為めになる話』（明治二四年四月二六日）・黙言道士『少年教育はなし』（明治二九年三月二



四日)

『修身<sup>修身</sup> 為めになる話』の自序によると、近頃の家庭教育の書物は実事に関係のないことが多いので「日頃児童にありさうなことを種として」「家庭教育の種本に致さうと思ひ」本書を作ったという。全六七話。これの口絵の二図を省略し、書名などを適宜改めただけの同版の改題本が『少年教育はなし』。漢字平仮名交じりほぼ総ルビで、「ます」を使った口語体の洋装本。前者は学友館刊、後者は大日本図書出版社刊。

黙言道士についてはこの著書がある以外は全く不明。前者の奥付に著者名はなく、替わって「発行兼編集者三好守雄」とある。「編集者」が「著者」を意味するのであれば、三好の作となる。ただし本文中には「著者」とか「黙言道士著」とあり、「編」「编者」とはしていない。後者の奥付にも著者名はない。三好は通俗的な教育書や法律関係書を多数著している。本書の著者(编者)であつてもおかしくはない。(斯1)『教育<sup>修身</sup>子供演説』(明治二二年)では「印刷者」であつた三好が、一年半後の本書では学友館の代表者になっている。

- 1 「〇欲<sup>よく</sup>深<sup>ふか</sup>き小児<sup>こども</sup>の話<sup>はなし</sup>」 40 ぺ (03)
- 2 「〇杉<sup>すぎ</sup>と葦<sup>あし</sup>の話<sup>はなし</sup>」 46 ぺ (A70)
- 3 「〇礼<sup>れい</sup>讓<sup>じやう</sup>を知らぬ二匹<sup>ふたひき</sup>の羊<sup>ひつじ</sup>の話<sup>はなし</sup>」 49 ぺ (21)
- 4 「〇阿呆<sup>あほう</sup>鳥<sup>からす</sup>と交<sup>まじ</sup>はりし鳩<sup>はと</sup>の話<sup>はなし</sup>」 52 ぺ (A194)
- 5 「〇豚<sup>ぶた</sup>の失<sup>はな</sup>敗<sup>せ</sup>せし話<sup>はなし</sup>」 55 ぺ (A83)
- 6 「〇蛙<sup>かえる</sup>の話<sup>はなし</sup>」 61 ぺ (05)

篠1・篠田正作著『少年<sup>少年</sup>子供演説』(明治二四年五月四日)

子供演説読み物の一つ。全一四演説。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を用いた口語体の洋装本。大阪の鐘美堂刊。これに新たに六三の演説を加えた増補版が後述する(篠3)『少年<sup>少年</sup>子供演説指南』(明治二五年)。更にそれから演説を一二削除し、新たに三を加えたのが(伴)『子供演説』(明治三三年)である。

篠田正作は修身読み物の他、明治一九年に設立された高等中学校向け受験参考書、裁縫本などの実用書、さらには軍歌集など多方面に亘る著書を持つ。秋野散史の号も用いている。

- 1 「〇須<sup>すべ</sup>らく其<sup>その</sup>量<sup>りやう</sup>を知るべし」 34 ぺ (A376) (絵)

森順・森本順三郎著『児童教話図会』(明治二四年八月)

子ども向けに絵入りで教訓話を数話載せた読み物。漢字平仮名交じり総ルビ文語体の和装本。木版で僅か六丁の簡便な体裁。発行者は森本順三郎、絵は孟齋春曉。所蔵するのは日本体育大学図書館「府川源一郎文庫」しか確認されない。これに一話インソップ寓話があることを府川源一郎氏からのご教示で知った。

森本順三郎は文久三年(一八六三)に江戸浅草で創業した出版人。大正期まで営業したらしい。孟齋春曉は永島春曉の名で知られる、歌川芳虎の門下の浮世絵師。

- 1 「情<sup>なさけ</sup>は人の為<sup>ため</sup>ならず」 5 才 (A235) (絵)
- タイトルはないが、冒頭の文で示す。



三・三浦源助編纂『小学修身全書』上巻（明治二四年九月二五日）・下巻（明治二四年十一月二〇日）

小学校での修身科教授の好資料となる嘉言善行の類を編集した、教師用書。本文は、話を載せるだけで、指導上の助言などは一切ない。巻頭に教育勅語を置く。全八九六話。上下二巻二冊。ただし、下巻を「後編」と称した箇所もあり、用語が不統一である。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。本文には「成美堂編纂」とあるが、奥付に「著作者兼発行者」として三浦源助の名があり、事実上三浦の仕事である。成美堂刊。扉には「東京成美堂発兌」とあるが、本店は発行者でもある三浦の在住する岐阜にあり、東京には支店を持つ。

三浦源助（一八三一〜一九一二）は漢加斯底爾の『小学修身口授』の翻刻版を明治九年に出版している。その後成美堂を創り、出版人として活躍する。

1 上巻 第五 雑話「(三二) 鳥屋の飼鳥に喰せ過たる話」(A 58)

実際は「第五」の「五」が脱。

2 上巻 第五 雑話「(七三) 美男児と醜女兒の話」(A 499)

3 上巻 第五 雑話「(九八) 蟬と大樹の話」(A 137)

4 上巻 第五 雑話「(一二七) 童子と盗人との話」(A 581)

5 上巻 第五 雑話「(一三二) 鴉が知恵をだして渴を防ぎし話」(A 390)

6 下巻第五 信義「(二七) 蟻の鳩に恩を報ひし話」(A

235)

7 下巻第五 信義「(五五) 馬を盗みてあらわれし話」(36)

8 第八 修学「(三九) 老農の遺言の話」(A 42)

9 第八 修学「(四七) 怠惰なる蟬と勤勉なる蟻の話」(A 112・373)

10 第八 修学「(四九) 怠惰なる狐と勉強なる野猪の話」(A 224)

11 第八 修学「(五四) 蟻と昆虫との話」(A 112・373)

12 第八 修学「(一〇〇) 兎と亀と競争せし話」(A 226)

13 第十一 雑話下「(七) 胃腑と支体との話」(A 130)

14 第十一 雑話下「(一二) 狐と鶴の話」(A 426)

15 第十一 雑話下「(一六) 狐と鶏の話」(A 562a)

16 第十一 雑話下「(一九) 旅人榎の木の恵みを悟りし話」(A 175)

17 第十一 雑話下「(二一) 乳汁売の話」(01)

18 第十一 雑話下「(二二) 杉と葦との話」(A 70)

19 第十一 雑話下「(二七) 蝦蟇の共和政治の話」(A 44)

20 第十一 雑話下「(二八) 老波(ママ)と眼医者の話」(A 57)

21 第十一 雑話下「(三四) 鹿の水鏡の話并欲深き犬の話」(A 74) (A 133)

22 第十一 雑話下「(四五) 児童の栗を取る話」(03)

23 第十一 雑話下「(四六) 羊飼の童子虚言せし話」(A 210)

24 第十一 雑話下「(五七) 山野羊を取失つた野羊飼の話」(A 6)

25 第十一 雑話下「(六〇) 驢馬を誑りし狐の話」(A 191)

26 第十一 雑話下「(六三) 守銭奴の話」(A 225)

27 第十一 雑話下「(六八) 農夫と鶴鳥の話」(A 194)

28 第十一 雑話下「(七〇) 獅子の恋慕の話」(A 140)

森園・森本園二編集『新編修身事実全書』(明治二四年一〇月一〇日)

久保田貞則校閲。巻頭に教育勅語を置く。全二三巻。

「目録」では一〇冊とあるが、巻ごとにページ付けされ、筆者の見た国会図書館本は一冊に合冊されている。修身科を教授するための教師用教訓話集。話数は千三百余にのぼる。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。大阪の盛文館刊。

森本園二は大阪在住者で、受験書などを出しているのが知られるだけである。久保田貞則は各地の師範学校長を歴任している。

1 卷之三交際「(十一) 或人悪に馴るゝ馬を買はず」(A 237)

2 卷之四誠実「(四) 樵夫の正直金銀の斧を得」(A 173)

3 卷之四誠実「(四十六) 下女の後悔」(A 55)

4 卷之四誠実「(五十八) 踊り自慢の娘」(A 33)

「目録」では番号を「(七十八)」と誤る。

5 卷之五勤勉「(十) 農夫遺言して暗に財宝を与ふ」(A

42)

6 卷之拾一廉潔「(六) 水中の肉を羨みて口裏の肉を失ふ」(A 133)

7 卷之拾三報恩「(一) 獅子恩を忘れず」(A 563 a)

8 卷之拾三報恩「(二) 一蟻小児を驚かして恩を報ふ」(A 235)

9 卷之拾三報恩「(三) 良鼠恩獅に報ふ」(A 150)

10 卷之拾三報恩「(十五) 楓樹も亦恩を施す」(A 175)

岡本可亭編集『幼年知識之金庫』(明治二五年一月七日)

表紙には「岡本可亭著」、内題には「岡本可亭編集」とある。「はしかき」には「児童が家庭にありて課外の娯楽に供へんがために編みし者なり」とある。角書きは、表紙、目次、巻末等では「幼年文学」とするが、内題一カ所は「少年文学」とある。二六話を載せるが、後半に附録二五話を収め、全五一話。漢字平仮名交じり総ルビ文語体の洋装本。大阪の吉岡宝文軒刊。

岡本可亭(一八五七―一九一九)は伊勢出身の書家で、版下の書き手として名を成す。本名良信、通称竹二郎。漫画家岡本一平の父。

1 「第十二 譽る人には油断すな」(A 124) (絵)

2 「第十五 狼」(A 156)

3 「第十六 欲ばり親爺」(03) (絵)

(03) と司馬温公の壺を割る話とを合わせる。  
4 附録「第四 大切な壺を破る」(03)

本編第十六話とほぼ同じ。

篠2…篠田正作著『少年教育修身実話』(明治二五年一月八日)

角書きは、目録、内題では「少年教育」とあるが、扉、序には「生徒教育」とある。修身読み物の一つで、明治二三年刊の篠田正作の『新篇教育修身実話』(鐘美堂)の増補版。全九一話。その増補部分にイソップ由来の話がある。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を使った口語体の洋装本。大阪の鐘美堂刊。

篠田については〈篠1〉『少年教育子供演説』(明治二四年)の項に記した。

1 「志」を立つるにも程がある」104ペ (A 376) (絵)

〈篠1〉の「〇須らく其量を知るべし」と文は異なるが、絵は同じ。

篠3…篠田正作著『少年教育子供演説指南』(明治二五年一月八日)

〈篠1〉『少年教育子供演説』(明治二四年)に新たに六三の演説を加えた増補版。〈篠1〉同様に大阪の鐘美堂刊。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を使った口語体の洋装本。ページ付けがない。

篠田正作については〈篠1〉の項に記した。

1 第二回「〇須らく其量を知るべし」(A 376) (絵)

教育…教育散史編輯『修身教育をしる草』(明治二五年三月二十九日)

修身読み物の一つで、家庭での教育のためにわかりやすい話を集めたという。全二二話中六話がイソップ由来。多少とも改変している。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を使った口語体の洋装本。発行者は東京の榊原友吉。教育散史は本名堀中徹蔵、漢詩漢文関係を中心に著書を多数持つ。

1 「〇獅子と鹿と兎とのはなし」4ペ (A 148) (絵)

2 「〇猫と馬とのはなし」8ペ (A 91) (絵)

3 「〇小児と盗人とのはなし」13ペ (A 581) (絵)

4 「〇蠅と牛とのはなし」15ペ (A 255) (絵)

5 「〇狼の医術のはなし」20ペ (A 187) (絵)

6 「〇狐と雞とのはなし」30ペ (A 562 a) (絵)

西寅2…西村寅二郎発行『修身立志談』(明治二五年五月七日)

修身読み物の一つで「立志談」と銘打つが、取り立ててそれに相応しい話とは限らない。全二〇六話。第一五六話までにイソップ寓話が一一話あり、ここまではたかもイソップ寓話集の様相を呈する。イソップ以外は、日本を中心に中国、ヨーロッパを含んだ歴史上の逸話である。漢字平仮名交じりほぼ総ルビの洋装本。イソップ寓話の多くは「ます」を使った口語体である一方、歴史上の逸話は文語体、あるいは文語体と口語体の混用といった具合で統一が取れていない。編著者名は一切記載されていない。東京の東雲堂刊。東雲堂は住所が西村と同じで、発行者も西村になっているから、西村の創始にか

かるのであろう。

西村寅二郎は〈西寅1〉『教育修身談』（明治二五年）を東雲堂から出しており、これにもイソップ寓話が一七収録されている。ただし同書は〈小池〉『通俗修身談』（明治二四年）の改題本である。これらについては前稿に記した。本書と『教育修身談』との間には共通のイソップ寓話が三話あるが、両者の本文は全く異なる。西村は文廼家主人を称し、都々逸、端唄の本を出している。

- 1 「●犬が牛肉を窃みたる話」 1 ぺ（A 133）
- 2 「●兎と亀の話」 1 ぺ（A 226）
- 3 「●狼と鶴の話」 2 ぺ（A 156）
- 4 「●弥陀如来木像を載せたる馬の話」 3 ぺ（A 182）
- 5 「●盗賊と犬の話」 5 ぺ（A 403）
- 6 「●狼と羊の話」 5 ぺ（A 157）
- 7 「●狐と山羊の話」 7 ぺ（A 9）
- 8 「●獅子と羊の話」 7 ぺ（A 514）
- 9 「●弓にて射られたる鷺の話」 8 ぺ（A 276）
- 10 「●敵に擒にせられたる喇叭卒の話」 8 ぺ（A 370）
- 11 「●呆鴉の話」 9 ぺ（A 472）
- 12 「●鳶と狼の話」 10 ぺ（A 98）
- 13 「●狐と獅子の話」 11 ぺ（A 10）
- 14 「●馬と圉夫の話」 11 ぺ（A 319）
- 15 「●田舎漢と蛇の話」 11 ぺ（A 176）
- 16 「●熊と狐の話」 12 ぺ（A 288）
- 17 「●驢馬と狒狗の話」 13 ぺ（A 91）
- 18 「●狼と羊の話」 14 ぺ（A 153）

- 19 「●獅子へ奉公する狐の話」 14 ぺ（A 394）
- 20 「●歳徳神と駱駝の話」 14 ぺ（A 117）
- 21 「●根津権現と車引の話」 15 ぺ（A 291）
- 22 「●兎と蛙の話」 15 ぺ（A 138）
- 23 「●農夫と鶴の話」 16 ぺ（A 194）
- 24 「●猿と駱駝の話」 16 ぺ（A 83）
- 25 「●鳶と狐の話」 17 ぺ（A 124）
- 26 「●烏と扁嘴鴉の話」 18 ぺ（A 125）
- 27 「●二足の蛙 移住の話」 19 ぺ（A 43）
- 28 「●牝獅子と獵夫の話」 20 ぺ（A 414）
- 29 「●猿の自慢の話」 20 ぺ（A 14）
- 30 「●獅子と野羊の話」 22 ぺ（A 338）
- 31 「●鷺黄金の卵を産む話」 23 ぺ（A 87）
- 32 「●二人の旅行者と斧の話」 24 ぺ（A 67）
- 33 「●蚊と牛の話」 24 ぺ（A 137）
- 34 「●守銭奴の話」 25 ぺ（A 225）
- 35 「●乗馬と驢馬の話」 26 ぺ（A 357）
- 36 「●蟻と鳩の話」 27 ぺ（A 235）
- 37 「●谷川に立た鹿の話」 28 ぺ（A 74）
- 38 「●盗賊と鶏の話」 29 ぺ（A 122）
- 39 「●鹿と獅子の話」 30 ぺ（A 76）
- 40 「●兎と獵犬の話」 31 ぺ（A 331）
- 41 「●海豚と鯨魚の話」 32 ぺ（A 62）
- 42 「●二足の犬の話」 33 ぺ（A 92）
- 43 「●童子と盗人の話」 33 ぺ（A 581）
- 44 「●馬と買客の話」 35 ぺ（A 237）

67	「●犬と鶏と狐の話」54 ぺ (A 252)	51	「●童児と榛実の話」41 ぺ (0 3)
66	「●獅子と鼠の話」53 ぺ (A 150)	50	「●鬬鶏と鷺の話」40 ぺ (A 281)
65	「●蠅と蜜壺の話」52 ぺ (A 80)	49	「●雀と兎の話」39 ぺ (A 473)
64	「●鼠と蛙と鳶の話」51 ぺ (A 384)	48	「●獅子の病氣の話」38 ぺ (A 142)
63	「●老たる犬の話」51 ぺ (A 532)	47	「●乱噪虫と梟の話」37 ぺ (A 507)
62	「●鷺と鳥の話」49 ぺ (A 2)	46	「●狐と仮面の話」37 ぺ (A 27)
61	「●羊の番をする牧童の話」49 ぺ (A 210)	45	「●兎と獅子の話」35 ぺ (A 450)
本文中のタイトルでは「狼」のルビ「おほかめ」。		本文中のタイトルでは「童児」「榛実」のルビ「こども」「はしばみ」。	
60	「●狼と獅子の話」48 ぺ (A 347)	52	「●鷗と鳶の話」42 ぺ (A 139)
59	「●狐と樵夫の話」47 ぺ (A 22)	53	「●獅子と熊と狐の話」42 ぺ (A 147)
58	「●驢馬と陰の話」47 ぺ (A 460)	54	「●親父と一人(ママ)の娘」43 ぺ (A 94)
57	「●雀の教解の話」45 ぺ (A 627)	55	「●山国の人と海の話」43 ぺ (A 168)
56	「●鳩と水瓶の話」44 ぺ (A 390)	56	「●鳩と水瓶の話」44 ぺ (A 390)

91	「●目次では脱落している。日輪を上訴たる蛙の話」77 ぺ (A 314)	68	「●蛙と牛の話」55 ぺ (A 376)
90	「●盲者と狼仔の話」76 ぺ (A 37)	69	「●驢馬と蟋蟀の話」56 ぺ (A 184)
89	「●老婦と空堀の話」75 ぺ (A 493)	70	「●牝獅子の話」56 ぺ (A 257)
88	「●児輩と蛙の話」74 ぺ (0 5)	71	「●母と狼の話」57 ぺ (A 158)
87	「●天文学者の話」73 ぺ (A 40)	72	「●猿と海豚の話」58 ぺ (A 73)
86	「●塩商と驢馬の話」71 ぺ (A 180)	73	「●ランプの話」59 ぺ (A 349)
85	「●一雙の壺の話」70 ぺ (A 378)	74	「●椶櫚と蘆の話」60 ぺ (A 70)
84	「●野羊と牧奴の話」69 ぺ (A 280)	75	「●児童と薊の話」61 ぺ (0 2)
83	「●旅行をした者の自慢話」69 ぺ (A 33)	76	「●老人と死神の話」61 ぺ (A 60)
82	「●寡婦と奴婢の話」67 ぺ (A 55)	77	「●片眼の鹿の話」63 ぺ (A 75)
81	「●鹿の葡萄蔓の話」67 ぺ (A 77)	78	「●北風と日輪の話」63 ぺ (A 46)
80	「●猫と鼠の話」65 ぺ (A 79)	79	「●鶴と鴈の話」64 ぺ (A 228)
本文中のタイトルでは「鴈」を「雁」とする。		本文中のタイトルでは「鴈」を「雁」とする。	

本文中のタイトルでは「上訴たる」を「上訴た」とする。

92	●鍛冶工と犬の話	78 ぺ (A 415)
93	●獵師と漁師の話	80 ぺ (A 327)
94	●獅子と海豚の話	81 ぺ (A 145)
95	●河と海の話	82 ぺ (A 412)
96	●老婆と医者の話	83 ぺ (A 57)
97	●秣槽のある犬の話	85 ぺ (A 702)
98	●田舎娘と牛乳壺の話	85 ぺ (01)
99	●牛と屠牛者の話	87 ぺ (A 290)
100	●漁人水を敲く話	87 ぺ (A 26)
101	●狐と蝟の話	89 ぺ (A 427)
102	●亀と鷺の話	89 ぺ (A 230)
103	●人殺者の話	91 ぺ (A 32)
104	●馬と蛙の話	92 ぺ (A 189)
105	●犬と羊の話	93 ぺ (A 478)
106	●兄と妹の話	94 ぺ (A 499)
107	●放蕩者と燕の話	95 ぺ (A 169)
108	●小児の溺泳ぐ話	96 ぺ (A 211)

本文中のタイトルでは「溺泳ぐ話」を「游泳ぐ話」とする。

109	●熊と旅人の話	97 ぺ (A 65) (絵)
110	●海岸と旅人の話	99 ぺ (A 177)
111	●庸医の蝦蟇の話	100 ぺ (A 289)

田中鎌太郎編『修身教育はなし』(明治二五年五月三

## ○目

三六話を収める修身読み物。一二話がイソップ由来と思われるが、多かれ少なかれ改変されている。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の洋装本。発行者は東京の松本正次郎、高橋源助。

田中鎌太郎は他に算術書を出していることだけが知られる。

1	◎獅子と鼠のはなし	5 ぺ (A 150)
2	◎鶏と狐のはなし	7 ぺ (A 252)
3	◎蝙蝠のはなし	11 ぺ (A 172)
4	◎獅子と狼井に狐のはなし	12 ぺ (A 258)
5	◎鷺と獅子のはなし	15 ぺ (A 335)
6	◎人を殺したる賊のはなし	42 ぺ (A 32)
7	◎用心深き狐のはなし	51 ぺ (A 142)
8	◎露を嘗め餓死したる鴉の話	52 ぺ (A 184)
9	◎燕と鴉のはなし	53 ぺ (A 229)
10	◎獅子と牛のはなし	54 ぺ (A 372)
11	◎正直と不正直の結果	57 ぺ (A 173)
12	◎ある農夫のはなし	59 ぺ (A 42)

江2…江東散史編『修身の鑑』(明治二五年一二月二六日)

〈江1〉『小学修身教育の話』(明治二二年)第三の途中までの改題本。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の洋装本。内題には「江東散史編」とある。江東散史は本名吉沢富太郎だが、奥付には「編輯兼発行者鈴木万次郎」



とある。吉沢と鈴木の関係は不明。発売所として東京の明治堂と開文堂の名があり、両者の住所は鈴木のとれと同じなので、事実上三者は一体と思われる。(江1)の吉沢の住所とも2番地違い。鈴木は医師で政治家となつた鈴木万次郎(一八六〇〜一九三〇)と思われる。

- 1 「〇蟻と鳩の話」23 ぺ (A 235)
- 2 「〇二人の旅人の話」30 ぺ (A 569) (絵)

獅・獅虫寛慈著『<sup>知育</sup>修身稚話』前編(明治二五年一二月二八日)

修身読み物の一つ。前編は全二二話。後篇にはイソップ寓話はない。漢字平仮名交じり総ルビで、「です」「ます」を使った口語体の洋装本。大阪の圭文堂刊。

獅虫寛慈は奈良県出身。演説本を二種出している以外は不明。

- 1 「蟻の話」8 ぺ (A 235)

平・平井美津編『修身譚』(明治二六年二月二五日)

小学児童の道しるべとなる話を集めたという修身読み物。全六〇話のうち七話がイソップ由来だが、多少とも改変している。漢字平仮名交じりで、ルビの多い「です」「ます」を使った口語体の洋装本。東京の一二三館刊。

平井美津については一切が不明。

- 1 「〇杉と葦の話」20 ぺ (A 70)
- 2 「〇牛と馬の話」29 ぺ (A 263)
- 3 「〇二匹の蜜蜂の話」71 ぺ (A 80)

- 4 「〇豚の失敗せし話」77 ぺ (A 83)
- 5 「〇猫と鼠の話」79 ぺ (A 191)
- 6 「〇蛙の話」87 ぺ (05)

森江・森本江南著『<sup>少年</sup>動物園』(明治二六年六月二八日)

動物にまつわる話を集めた少年向け読み物。動物の解説の他、実話や寓話もある。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の洋装本。発行者は大阪の吉岡平助。

森本江南については不明。

- 1 「●蝙蝠鳥類の仲間を除かる」15 ぺ (A 566)
- 2 「●狐と鶴」54 ぺ (A 426)
- 3 「●狐鳥を欺く」56 ぺ (A 124)
- 4 「●旅人と熊」87 ぺ (A 65)
- 5 「●獅と奴隸」93 ぺ (A 563 a)
- 6 「●獅鼠に救はる」99 ぺ (A 150)

辻・辻本三省著『<sup>家庭</sup>修身少年美談』(明治二七年三月三一日)

修身読み物の一つ。巻頭に教育勅語を置く。全六七話を載せた後に格言集を付す。漢字平仮名交じり総ルビで、「ます」を用いた口語体の洋装本。大阪の積善館刊。

辻本三省については不明。

- 1 「●猫の鼠とり」31 ぺ (A 133)
- 2 「●うそつき者の身知らず」38 ぺ (A 210)
- 3 「●主従の関係」47 ぺ (A 130)



山蒼…山本蒼治著『家庭教育修身書』（明治二七年一月二九日）

巻頭に教育勅語を置く。伯爵東久世通禧と大学教授本居豊顯（当時「大学」を称していたのは東京の帝国大学のみ）の題辭を載せるなど權威主義的で、修身読み物の中でも特に忠君愛国的要素が強い。「忠」「孝」などの徳目を説く際に「例話」を添える。その例話の中にイソップ寓話がある。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。東京の済美館刊。奥付に「編輯兼発行者」として山本蒼治の名があるので、済美館は山本の創始した出版社であるう。

山本については、それ以外のことはわからない。

- 1 「蟻ありの報恩ほうおん」 2 ぺ（A 235）
- 2 「蝙蝠の破廉恥」 62 ぺ（A 566）
- 3 「鼠のよりあひ」 81 ぺ（A 613）
- 4 「蟻と蟋蟀との問答」 120 ぺ（A 112・373）

小島…小島安太郎著『幼年教育修身のすゝめ』（明治二八年二月二五日）

「家庭教育修身科の一助となさん」（自序）との目的の修身読み物。全三一話で、多くが動物寓話。イソップに基づくのが七話あるが、しばしば改変がある。漢字平仮名交じりほぼ総ルビの洋装本。文語調が混じる「ます」を用いた口語体を用いる。東京の吉村卯太郎の錦江堂刊。小島安太郎は他に教科書の字引や軍歌本を著している。

- 1 「○海亀と大鷲との話」 1 ぺ（A 230）
- 2 「○鳥と狐との話」 2 ぺ（A 124）
- 3 「○虎と鼠との話」 3 ぺ（A 150）
- 4 「○傲慢なる鳥の話」 5 ぺ（A 472）
- 5 「○虚つき子供の話」 7 ぺ（A 210）
- 6 「○兎とかめのとの話」 23 ぺ（A 226）
- 7 「○高慢になりし雀の話」 24 ぺ（A 10）

伴…伴成高著『子供演説』（明治三三年九月二八日）

〈篠3〉『少年教育子供演説指南』（明治二五年）から演説を一二削除し、新たに三を加えた改訂版。漢字平仮名交じり総ルビ口語体の洋装本。〈篠3〉同様に大阪の鐘美堂刊だが、著者名が篠田正作から伴成高に変わっている。両者の関係は不明。

伴は鐘美堂から美談読み物などを出していることが知られる。

- 1 「○須すべらく其そのりやう量りやうを知るべし」 32 ぺ（A 376）（絵）

下…下田歌子著『少女文庫お伽噺教草』（明治三四年八月三一日）

下田歌子（一八五四〜一九三六）が女子向けに編輯した「少女文庫」シリーズの第一編で、日本・西洋の歴史上の逸話や寓話を収録する。全四五話。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の洋装本。同シリーズは第六編までが確認できる。東京の博文館刊。イソップ寓話から一話採り、下田は読本教科書『国文小学読本』（明治二〇年）

にもこの話を載せている。

1 「十三 蜻蛉の蟻に苦しめられし事」(A 112・373)  
本文中のタイトルは「蜻蛉の蟻に辱しめられし事」。

教資・教育資料研究会纂訳『<sup>材料</sup>話の泉』(明治三十七年三月一六日)

教師が授業をするうえで材料となる話を、ドイツの童話作家の著書、中国の史伝逸話から「纂訳」したという(「緒言」)。上中下三編一冊、全九六話。漢字平仮名交じりで、「ます」を使った口語体の洋装本。そのまま読み聞かせても児童が理解できる文体である。東京の学海指針社刊。

教育資料研究会は、明治三七、三八年に多くの学習書を学海指針社から出している。同社に集う教育者の組織なのであろう。

1 中編「二十九 川の上の鹿」(A 74)

中村・中村徳助著『世界新お伽』(明治四三年一二月二八日)

主にヨーロッパの、物語、寓話、歴史上の逸話などを集める。全八五話中三四話がイソップ由来。漢字平仮名交じり総ルビで、常体の口語体の洋装本。印藤真楯画。東京の盛林堂刊。

中村徳助は、『アラビアンナイト』の翻訳やサミュエル・スマイルズの『自助論』を、小山内薫との共訳で出版するなどしている。また前年の明治四二年には『新訳

解説伊蘇普物語』(精華堂書店)というイソップ寓話集を出している。本書と共通する話は三三話ある。両者を比較すると、タイトルはほぼ一致し、本文は『新訳解説』の敬体の口語体を常体に置き換えただけであることがわかる。掲載順もほぼ合致する。挿絵を描いた印藤真楯(一八六一〜一九一四)はフォンタネージに教えを受けた洋画家。挿絵は人物、服装など洋風。

1 「○寡婦と牝鳥」15 ぺ (A 58)

2 「○鼠の会議」23 ぺ (A 613)

3 「○狐の悪智慧と鶴」30 ぺ (A 426)

4 「○神より賜はりし二つの鞆」43 ぺ (A 266)

5 「○蛙の引越」47 ぺ (A 43)

本文中のタイトルでは「蛙」のルビ「かへる」。本文では「蛙」。

6 「○鷺の恩義」48 ぺ (A 395)

目次では脱落している。

7 「○熊と狐の問答」59 ぺ (A 288)

本文中のタイトルではルビ「問答」。

8 「○忠義の獵犬」73 ぺ (A 532) (絵)

本文中のタイトルではルビ「獵犬」。

9 「○熱心と注意」94 ぺ (A 201)

目次では脱落している。

10 「○獅子と野牛」99 ぺ (A 414)

11 「○アントロクラスと獅子」100 ぺ (A 563 a)

12 「○紳士と犬」106 ぺ (A 330)

13 「○牛の真似せる蛙」111 ぺ (A 376)

本文中のタイトルでは「蛙」のルビ「かへる」。本文では「蛙」(母蛙、親蛙)。

14 「○横着の猫と可愛き鶏」 114 ぺ (A 16)

15 「○山羊と狼」 119 ぺ (A 98)

16 「○鳥と蝗虫」 126 ぺ (A 184)

17 「○雀と山雀」 129 ぺ (A 194)

本文中のタイトルでは「山雀」のルビ「やますづめ」。

本文では「山雀」。

18 「○馬と主人」 136 ぺ (A 320)

19 「○驢馬の感違」 141 ぺ (A 182)

20 「○猫と鼠の智慧」 150 ぺ (A 79)

21 「○金銀と石瓦」 151 ぺ (A 225)

22 「○桜と海棠」 153 ぺ (A 213)

本文中のタイトルではルビ「海棠」。

23 「○大敵小敵」 153 ぺ (A 255)

本文中のタイトルでは「大敵と小敵」。

24 「○鳥の自惚」 154 ぺ (A 124)

25 「○鳩の恩義と蟻の義理」 155 ぺ (A 235)

本文中のタイトルでは「鳩の恩と……」。

26 「○人は友を選べ」 156 ぺ (A 65)

27 「○情は人の為ならず」 158 ぺ (A 176)

28 「○老いては子に従へ」 159 ぺ (A 531)

29 「○猿の人真似」 159 ぺ (A 203)

30 「○牛と蠅」 160 ぺ (A 137)

本文中のタイトルでは「蠅」のルビ「はい」。本文では「蠅」。

31 「○猪の用心」 165 ぺ (A 224)

32 「○顔の美と心の美」 165 ぺ (A 499)

33 「○狼の自惚」 166 ぺ (A 260)

34 「○狐と驢馬と獅子」 167 ぺ (A 191)

### 三 対照表

以下の「明治期寓話集等掲載イソップ寓話対照表 改訂版」は、どのイソップ寓話が、どの明治期寓話集等の文献のどの箇所に掲載されているかを示したものである。同様の対照表は前稿にも示したが、この小論の調査結果を踏まえ、全面的に改めた。

#### 【凡例】

1 寓話の配列は B. E. Perry の *Aesopica* の番号に従った。*Aesopica* になくてイソップ寓話と認めた寓話は、以下のように仮のタイトルと番号(括弧内に二桁の全角算用数字で示す)を付した。

(01) 少女と牛乳壺…空想にふけている娘が牛乳壺を落とす。

(02) アザミと子ども…アザミ(トゲのある草)に傷ついた子に母親が力は力を入れてつかめと諭す。

(03) 欲張る子ども…中の木の実をいっぱい取ろうと壺に手を入れたが手の抜けない子どもに、側の人が半分で我慢すればよいと諭す。

(04) 取り除かれた生け垣…生け垣なんか不要だと取り除いたために、人や動物が勝手に出入りして畑が荒らされる。

(05) 子どもとカエル…石を投げつける子どもたちに対しカ

エルがやめろと抗議する。

(06) 三人の職人…敵から守る手段として、職人三人がそれぞれ我田引水の主張をする。

(07) ライオンの威を借りるロバ…ライオンの威を借りるロバが結局ライオンに殺される。

(08) 盗人と法師…盗人が法師の教えにより改心する。

(09) イタチとネズミ…体の弱ったイタチがネズミをだまし殺すが年寄りのネズミはだまされない。

(10) 羊飼いを追い出すオオカミ…メスオオカミが子を産むために羊飼いに場所を借りて遂には羊飼いを追い出してしまう。

(11) ロバを相手にしないライオン…ロバがライオンを侮辱するが、最初は怒ったライオンも最後は取るに足らぬ奴と相手にしない。

(12) 熊と蜂…蜂の巣を奪って蜜をなめ尽くした熊が蜂に仕返しされる。

(13) ウサギと猟犬…花園を荒らすウサギを退治しようと猟犬を使って、かえって猟犬に一層花園を荒らされてしまう。

(14) 仕立て師と芸人…飢饉に際して、仕立てが取り柄だけの仕立て師は仕立てで口を糊することができたが、多芸を誇った芸人は芸を活かすことができなかった。

(15) 植え換えた木…実のなる木を自分の物にしようと植え換えたために木を枯らしてしまう。

(16) イソップの忠告…罪人を溺れさせて浮くか沈むかでの罪を判断することの不当をイソップが説く。

(17) 太鼓と花瓶…太鼓が音を自慢し、花瓶がそれに反論す

る。

(18) 石のスープ…貧乏な男が金持ちの家で石を使って到頭スープを作ってしまう。

(19) キツネと鶏…罠にかかったキツネを鶏が農夫に伝え、キツネは捕まってしまう。

(20) ヤマアラシと蛇…蛇の巣を借りたヤマアラシのトゲを嫌った蛇が立ち退きを要求してもヤマアラシは出て行かない。

(21) 二匹のヤギ…橋で出逢った二頭のヤギが互いに譲らず遂には二頭とも川に落ちてしまう。

(22) 火中の栗…猿にそのかされて猫が火の中から取りだした栗を猿がすべて食べてしまう。

(23) ヒョウタンと松…ヒョウタンが成長の早さを松に自慢すると、松がヒョウタンは霜で簡単に枯れてしまうとたしなめる。

(24) アラビア人を追い出すラクダ…ラクダがアラビア人にテントを借り、遂にはアラビア人を追い出してしまう。

(25) 象とネズミと猫…ネズミが象を大きいだけだと批判しているときに猫に食べられてしまう。

(26) 目の不自由な人と足の不自由な人…目の不自由な人と足の不自由な人がお互い助け合って旅行する。

(27) ロバと猿とモグラ…角がないロバと尾のない猿がその不足に愚痴をいうと、目の見えないモグラがそれをたしなめる。

(28) 井戸に落ちたキツネ…井戸に落ちたキツネに助けを求められたオオカミが一向に実行しない。

(29) ライオンとネズミの結婚…メスライオンと結婚したネズミが花嫁に踏みつぶされる。

(30) トビにさらわれるカエルとネズミ…一騎打ちをしているカエルとネズミをトビが一挙にさらって行く。

(31) キツネとウサギの願い…キツネが長い脚を、ウサギが知恵を神に願ひ、神にたしなめられる。

(32) 愛の神と死の神…愛の神の矢と死の神の矢とが混じり合ってしまう。

(33) ツバメとツグミ…ツバメとツグミ(ムクドリ)が仲違いして交際を断つ。

(34) 命乞いするタカ…ハトを追ったタカがカラスを捕る網にかかって、農夫に命乞いをするが聞き入れられない。

(35) 自慢する土器…完成前の土器が貴人に提供されると自慢するが、雨で土に戻ってしまう。

(36) 馬の裁判…馬を奪い取った者がイソップの頓智でやりこめられる。

(37) 所用時間を答えるイソップ…村までの所要時間を尋ねられたイソップが、旅人が歩き始めてから答える。

(38) 木々とトネリコ…木々が木こりに提供したトネリコが斧の柄となつて木々が倒される。(A 302・303に似るが別とする)

2 *Aesopica* 中の寓話タイトル名は、1と471は中務哲郎訳『イソップ寓話集』(岩波書店、一九九九年三月)に、472と579は岩谷智・西村賀子訳『イソップ風寓話集』(国文社、一九九八年一月)に従った。ただし、漢字表記は極力常用漢字の範囲にとどめるため改めた。他

は *Perry of Babrius and Phaedrus* (Harvard University Press, 一九六五) の英文タイトルを和訳した。

3 各文献はこの小論で付けた略記で示した。文献名に続き括弧内に寓話掲載箇所を示した。掲載箇所は、巻・編・章など上位分類があれば、それを漢数字で示した。「上巻」「初編」など数字によらない場合は「上」「初」などで示した。次に各文献内での寓話番号を算用数字で示した。それが無い場合は、丁付またはページを「54」「p16」のように算用数字で示した。

# 明治期寓話集等掲載イソップ寓話対照表 改訂版

Aesopica等の番号とタイトル	掲載文献と掲載箇所
1 ワシとキツネ	池(次19ウ)
2 ワシとコクマルガラスと羊飼	小池(p41)・西貢2(p49)・鈴(p38)・鈴(p96)
6 ヤギ飼いと野生のヤギ	阿(三54)・大1(p82)・横(p98)・三(下十一57)
9 井戸の中のキツネとヤギ	池(次6ウ)・西貢2(p7)・鈴(p57)
10 ライオンを見たキツネ	川1(三7オ)・日(二5)・木(p9)・西貢2(p11)・秋(幻p32)・鈴(p61)
11 笛を吹く漁師	西野1(p34)
12 キツネとヒョウ	青2(p13)・大1(p20)・大3(p14)
14 家柄を競うキツネと猿	池(三28ウ)・西貢2(p20)・鈴(p72)
15 キツネとブドウ	石(一33)
16 猫と鶏	青2(p8)・中村(p114)
17 しっぽのないキツネ	省(10オ)・石(四76)・大1(p48)・吉1(4ウ)・大3(p10)
18 漁師とニシン	中川(2オ)・川1(四7オ)・和(p57)
22 キツネときこり	遠(一42)・阿(三47)・石(三56)・西貢2(p47)・鎌(p52)・鈴(p93)
24 腹のふくれたキツネ	池(初27ウ)・阿(一6)・秋(俱p24)・少伽(18)
26 水を打つ漁師	西貢2(p87)・鈴(附p24)
27 キツネとモルモートの面	阿(二45)・西貢2(p37)・絵伽(68)・鈴(p84)
29 炭屋と洗濯屋	絵伽(62)
31 ロマンズ・グレーと二人の愛人	川1(一2ウ)
32 人殺し	池(初25ウ)・日(二p13)・小池(p7)・西貢2(p91)・田(p42)・馬(51)・鈴(附p25)
33 ほら吹き	阿(二33)・川1(一6ウ)・森園(四58)・西貢2(p69)・馬(14)
35 人間とサテュロス	池(次22ウ)・青2(p18)・大1(p38)・日(五p5)
37 目の見えぬ人	大1(p66)・西貢2(p76)・鈴(p115)
39 ツバメと鳥たち	深(15)
40 天文学者	日(五p14)・大2(p64)・吉1(1ウ)・西貢2(p73)・馬(72)・鈴(附p17)
42 農夫と息子たち	福論(4イ)・沢井(四1)・省(6ウ)・加1(三5)・池(次18ウ)・阿(三24)・横(p181)・沢久(一丙11ウ)・三(下八39)・森園(五10)・田(p59)・絵伽(1)・馬(95)
43 水を探すカエル	省(5オ)・加1(二13)・深(15)・大1(p12)・西貢2(p19)・中村(p47)・鈴(p71)
44 王様を欲しがるカエル	福論(12木)・遠(一26)・池(次33ウ)・青2(p20)・石(二63)・西野1(p6)・三(下十一27)・少伽(11)
45 牛と車輪	省(2オ)
46 北風と太陽	福論(16イ)・阿(三56)・川1(一5ウ)・石(二95)・西貢2(p63)・秋(博p16)・馬(11)・鈴(附p14)
49 子牛を盗まれた牛飼いとライオン	吉2(二p15)
51 農夫と蛇	池(三7ウ)・石(三50)
53 兄弟げんかする農夫と息子	阿(一35)・大2(p84)・坪(p15)・東1(6)
55 女主人と召し使い	遠(二10)・阿(三57)・石(二67)・日(一p19)・森園(四46)・西貢2(p67)・鈴(附p15)
57 老婆と医者	石(四53)・大1(p54)・西野1(p32)・三(下十一28)・西貢2(p83)・馬(6)・鈴(附p20)
58 女とメンドリ	青2(p17)・石(一64)・三(上532)・東2(8)・馬(76)・中村(p15)
59 イタチとやすり	阿(二32)
60 老人と死に神	西貢2(p61)・絵伽(95)・馬(15)・鈴(附p13)
62 イルカとハゼ	大2(p28)・西貢2(p32)・鈴(p81)
65 旅人とクマ	加1(一16)・中川(20オ)・池(次9ウ)・阿(三48)・青2(p29)・横(p59)・和(p86)・西野1(p13)・西貢2(p97)・森江(p87)・東2(5)・明伽(6)・馬(57)・中村(p156)・鈴(p128)
67 旅人とおの	加1(二1)・遠(二1)・池(次11ウ)・西貢2(p24)・秋(一p44)・鈴(附p6)
70 カシとアシ	石(一50)・日(五p15)・大2(p60)・黙(p46)・三(下十一22)・西貢2(p60)・平(p20)・東1(2)・馬(67)・鈴(附p12)
73 イルカと猿	青2(p24)・石(三13)・大1(p40)・大3(p10)・西貢2(p58)・鈴(p107)
74 水辺の鹿	池(次2ウ)・青2(p1)・横(p261)・日(三p2)・斯1(p96)・沢久(三丁10ウ)・三(下十一34)・西貢2(p28)・秋(博p24)・教資(中29)・少伽(14)・小蝶(p83)・鈴(p77)
75 片目の鹿	石(三46)・大2(p26)・西貢2(p63)・馬(82)・鈴(p108)
76 鹿と洞穴のライオン	大1(p80)・西貢2(p30)・鈴(p79)
77 鹿とブドウ	遠(一13)・阿(二27)・石(一11)・日(一p18)・大2(p44)・西貢2(p67)・秋(幻p28)・鈴(p110)
79 猫とネズミ	中川(15オ)・西貢2(p65)・中村(p150)・鈴(p109)
80 ハエ	福論(10イ)・中川(19オ)・川1(四4オ)・大2(p29)・西貢2(p52)・平(p71)・鈴(p99)
81 王に選ばれた猿とキツネ	大1(p10)・馬(90)
83 踊る猿とラクダ	青2(p14)・川1(一4ウ)・大1(p120)・黙(p55)・西貢2(p16)・平(p77)・鈴(p68)
85 子豚と羊	大2(p37)
87 金の卵を生むガチョウ	福論(12イ)・省(2ウ)・深(13)・遠(一23)・日(五p11)・大2(p52)・西貢2(p23)・少伽(15)・鈴(p74)
91 じゃれつくロバと主人	加1(三6)・池(三6ウ)・阿(三18)・川1(六1ウ)・西森1(p52)・鎌(p31)・教教(p8)・西貢2(p13)・馬(34)・鈴(p63)
92 二匹の犬	池(三2ウ)・阿(一37)・西貢2(p33)・鈴(p81)
94 父親と二人娘	川1(四6オ)・日(一p11)・吉(二p9)・西貢2(p43)・鈴(附p9)
97 子ヤギと笛を吹くオオカミ	遠(一33)・大2(p65・77)
98 屋根の上の子ヤギとオオカミ	石(一23)・大2(p30)・西貢2(p10)・中村(p119)・鈴(p61)
112 アリとセンチコガネ	渡(六2)・福論(13イ)・遠(一35)・池(初1ウ)・阿(三8)・青2(p2)・綾(p7)・石(一79)・横(p88)・横(p232)・吉(二p5)・西野1(p1)・三(下八47)・三(下八54)・小池(p3)・小池(p30)・鎌(p25)・山嘗(p120)・下(13)・馬(9)・鈴(p4)・鈴(p27)
117 角を欲しがるラクダ	池(三15ウ)・西貢2(p14)・鈴(p66)
122 泥棒とオンドリ	池(初29ウ)・西貢2(p29)・鈴(p78)
124 カラスとキツネ	遠(一38)・池(初28ウ)・青2(p4)・石(二41)・岡(12)・鎌(p9)・西貢2(p17)・秋(智p44)・森江(p56)・小島(p2)・東2(2)・馬(26)・中村(p154)・鈴(p69)
125 ハシボソガラスとカラス	西貢2(p18)・鈴(p70)
130 胃袋と足	渡(七3)・是(7)・室(1オ)・池(次3ウ)・阿(三44)・三(下十一7)・小池(p40)・鎌(p36)・辻(p47)
133 肉を運ぶ犬	室(8オ)・遠(一44)・池(次4ウ)・阿(一39)・横(p97)・三(下十一34)・森園(十一6)・鎌(p4)・西貢2(p1)・秋(博p34)・辻(p31)・東1(9)・少伽(20)・小蝶(p23)・馬(30)・鈴(p51)
135 腹をすかせた犬	遠(一2)・石(一60)・秋(新p34)・絵伽(32)・馬(12)
137 蚊と牛	阿(三55)・川1(七7オ)・石(二70)・日(一p15)・大2(p54)・三(上598)・西貢2(p24)・中村(p160)・鈴(p75)
138 ウサギとカエル	西貢2(p15)・絵伽(48)・馬(94)・鈴(p66)
139 カモメとトビ	阿(二8)・大1(p84)・川1(7ウ)・大3(p12)・西貢2(p42)・鈴(p88)



140	恋するライオン	大2(p5)・三(下十一70)・鎌(p50)・少伽(22)・絵伽(18)
142	老いたライオンとキツネ	遠(一17)・池(次7ウ)・西寅2(p38)・田(p51)・馬(5)・鈴(p86)
145	ライオンとイルカ	日(一p6)・西寅2(p81)・鈴(p117)
147	ライオンとクマ	遠(一15)・西寅2(p42)・鈴(p89)
148	ライオンとウサギ	教散(p4)・絵伽(57)・馬(99)
149	ライオンとロバとキツネ	石(三73)
150	ライオンとネズミの恩返し	省(8才)・遠(一39)・池(次21ウ)・斯2(p15)・森園(十三3)・西寅2(p53)・田(p5)・森江(p99)・小島(p3)・東1(3)・小蝶(p121)・馬(92)・鈴(p100)
153	オオカミと羊	吉2(四p11)・西寅2(p14)・堀(p26)・鈴(p64)
155	オオカミと子羊	加1(二4)・大1(p46)・小池(p43)・鈴(p39)
156	オオカミとサギ	省(26ウ)・深(12)・池(初24ウ)・青2(p6)・石(二87)・岡(15)・西野1(p34)・鎌(p61)・西寅2(p2)・東1(5)・少伽(13)・絵伽(3)・鈴(p53)
157	オオカミとヤギ	石(四22)・日(一p9)・大2(p32)・西寅2(p5)
158	オオカミと老婆	川1(四2ウ)・日(一p17)・杉(19)・西寅2(p57)・鈴(p105)
160	けがをしたオオカミと羊	大2(p58)・鎌(p19)・鈴(p56)
168	遭難者と海	日(一p7)・西寅2(p43)・鈴(附p10)
169	放蕩(ほうとう)息子とツバメ	西寅2(p95)・鈴(p126)
172	コウモリとイタチ	小池(p13)・田(p11)・明伽(11)・鈴(p17)
173	きこりとハルメス	阿(一13)・阿(一14)・日(二p2)・森園(四4)・田(p57)・少伽(1)
174	旅人と運の女神	池(三31ウ)・川1(四1ウ)・川1(五7才)・日(一p20)
175	旅人とプラタナス	山名(二5)・池(三12ウ)・阿(一42)・日(一p4)・西野1(p31)・三(下十一19)・森園(十三15)・馬(31)
176	旅人とマムシ	阿(二26)・西寅2(p11)・中村(p158)・鈴(p62)
177	旅人と薪	西寅2(p99)
179	ロバと庭師	西野1(p17)・絵伽(135)
180	塩を運ぶロバ	遠(一30)・池(次16ウ)・横(p175)・日(一p27)・西寅2(p71)・東2(6)・絵伽(135)・馬(97)・鈴(p112)
181	ロバとラバ	遠(一28)・阿(二39)・斯2(p20)・少伽(5)・小蝶(p126)
182	神像を運ぶロバ	鎌(p14)・西寅2(p3)・中村(p141)・鈴(p55)
184	ロバとセミ	日(一p23)・西寅2(p56)・田(p52)・中村(p126)・鈴(p103)
186	ロバとロバ追ひ	阿(一41)・青2(p23)・大2(p48)
187	オオカミの医者	青2(p27)・教散(p20)・
188	ライオンの皮を被ったロバ	秋(博p18)・馬(52)
189	ロバとカエル	西寅2(p92)・鈴(p123)
191	ロバとキツネとライオン	遠(一9)・阿(三35)・大2(p62)・三(下十一60)・平(p79)・東1(7)・中村(p167)
194	猟師とコウノトリ	加1(三8)・阿(二24)・川1(四4ウ)・石(一49)・黙(p52)・三(下十一68)・鎌(p33)・西寅2(p16)・中村(p129)・鈴(p67)
200	盗みをする子と母親	西野1(p5)
201	のどの渴いたハト	秋(幻p34)・馬(16)・中村(p94)
203	猿と漁師	池(初31ウ)・阿(二35)・阿(二36)・秋(新p46)・中村(p159)
207	羊飼いと海	秋(新p16)
210	羊飼いのいたずら	福論(26イ)・上(3)・沢井(二六1)・福英(3ウ)・阿(一47)・川1(三1ウ)・石(四67)・横(p95)・大2(p104)・吉1(8ウ)・西森1(p54)・西野1(p41)・木(p5)・三(下十一46)・西寅2(p49)・辻(p38)・小島(p7)・少伽(6)・馬(73)・天(17)・鈴(p95)
211	水浴びをする子供	青2(p16)・日(一p25)・西寅2(p96)
212	毛を刈られる羊	大2(p14)
213	ザクロとリンゴとイバラ	大1(p88)・中村(p153)
214	モグラ	池(三13ウ)
218	猿の子供	池(三33ウ)・小池(p38)・鈴(p34)
224	イノシシとキツネ	上(4)・阿(一34)・石(一76)・三(下八49)・中村(p165)
225	守銭奴	和(p6)・三(下十一63)・西寅2(p25)・馬(80)・中村(p151)・鈴(附p7)
226	カメとウサギ	遠(一41)・池(三1ウ)・阿(一44)・川1(五1ウ)・石(一17)・西野1(p11)・木(p4)・三(下八100)・西森2(p154)・鎌(p22)・森下(p44)・西寅2(p1)・秋(滑p28)・小島(p23)・東1(4)・東1(唱歌)・少伽(16)・馬(68-2)・鈴(p52)
227	ツバメと蛇	石(四17)・大2(p8)
228	ガチョウとツル	西寅2(p64)・鈴(p108)
229	ツバメとハンボソガラス	田(p53)
230	カメとワシ	今(6才)・加1(三17)・池(初10ウ)・阿(三23)・川1(六5才)・西野1(p31)・西寅2(p89)・小島(p1)・鈴(p122)
234	オオカミと羊飼ひ	池(次8ウ)・鎌(p54)
235	アリとハト	中川(3ウ)・遠(一3)・池(初8ウ)・阿(二47)・石(一61)・横(p49)・日(二p14)・江1(二p6)・和(p32)・西野1(p3)・森順(5才)・三(下五27)・森園(十三2)・佐(66)・西寅2(p27)・秋(新p40)・江2(p23)・獅(p8)・山簗(p2)・東2(3)・中村(p155)・鈴(p76)
237	ロバを買う男	池(三8ウ)・阿(一30)・川1(一1ウ)・大1(p50)・横(p58)・森園(三11)・西寅2(p35)・鈴(p82)
252	犬と鶏とキツネ	遠(一40)・西野1(p40)・西寅2(p54)・田(p7)・馬(100)・鈴(p101)
255	蚊とライオン	斯1(p55)・教散(p15)・小蝶(p45)・馬(33)・中村(p153)
257	ライオンとキツネ	阿(一2)・川1(七5ウ)・日(二p11)・西寅2(p56)・東1(8)・鈴(p104)
258	病気のライオンとオオカミとキツネ	田(p12)・明伽(4)
260	うぬぼれオオカミとライオン	東2(7)・絵伽(3)・中村(p166)
263	ロバとラバ	平(p29)
265	猟師と山ウズラ	遠(一5)・秋(幻p44)
266	振り分け袋	中村(p43)
269	イノシシと馬と猟師	石(二53)
276	射られたワシ	池(三3ウ)・西寅2(p8)・鈴(p59)
280	ヤギとヤギ飼ひ	秋(幻p20)・西寅2(p69)・鈴(p111)
281	タナグラのオンドリ	池(初23ウ)・西寅2(p40)・鈴(p88)
282	漁師と魚	大2(p47)
285	神像をたたきつぶした男	大1(p42)・小池(p42)・絵伽(1)
287	アラブ人とラクダ	大2(p36)
288	クマとキツネ	阿(一53)・石(三63)・西寅2(p12)・中村(p59)・鈴(p63)
289	カエルのお医者	遠(一27)・鎌(p12)・西寅2(p100)・馬(41)・鈴(p130)
290	牛と肉屋	西寅2(p87)・鈴(p119)
291	牛追いとヘラクレス	福論(5イ)・沢井(五1)・中川(22ウ)・池(初32ウ)・阿(一54)・川1(七2ウ)・西寅2(p15)・鈴(附p3)



294 ツルとクジャク	池(初3ウ)・秋(博p28)・明伽(8)
297 農夫とツル	池(初26ウ)
300 子牛と畑牛	遠(一22)
302 カシノキとゼウス	秋(伊p42)・馬(93)
303 きこりと松	馬(93)
305 病気の鹿	上(5)・青2(p35)・石(四63)・大1(p52)・大1(p116)・大3(p14)・鎌(p48)
314 太陽とカエル	大2(p50)・西寅2(p77)・鈴(p116)
319 馬と馬丁	石(二79)・小池(p7)・西寅2(p11)・鈴(p7)
320 馬と兵士	中村(p136)・絵伽(27)
322 カニと母親	和(p26)・馬(84)
324 病気のカラス	石(四24)・鎌(p7)
325 ヒバリと農夫	福論(5口)・沢井(五2)・省(11ウ)・深(15)・室(4ウ)・遠(一18)・大2(p107)
326 臆病(おくびょう)な獵師	日(一p22)・秋(博p42)・馬(18)
327 海幸山幸	西寅2(p80)
328 宴会に招かれた犬	馬(89)
330 犬と主人	阿(一22)・吉1(7オ)・中村(p106)
331 犬とウサギ	遠(一1)・青2(p11)・川1(五4ウ)・西寅2(p31)・東2(9)・鈴(p80)
332 鈴をつけた犬	石(四84)
335 ライオンとウシ	田(p15)
338 ライオンとイノシシ	大2(p56)・西寅2(p22)・鈴(p73)
339 ライオンと野生のロバ	日(一p2)
340 ライオンと射手	大1(p24)
341 狂えるライオンと子鹿	鈴(p84)
342 オオカミと犬の和解	馬(13)
346 オオカミと肥えた犬	西野1(p29)
347 オオカミとライオン	青2(p10)・大2(p40)・西寅2(p48)・秋(新p44)・鈴(p94)
349 ランプ	川1(七1ウ)・日(二p12)・大2(p21/5)・西寅2(p59)・馬(88)・鈴(附p11)
352 田舎のネズミと町のネズミ	福論(12ハ)・遠(一25)・池(初9ウ)・西野1(p8)・少伽(4)
355 旅人と真実の女神	大1(p60)
357 馬をうらやむロバ	遠(一34)・川1(二3オ)・大2(p42)・西寅2(p26)・絵伽(84)
370 ランパ兵	池(次12ウ)・阿(二48)・青2(p33)・西寅2(p8)
372 三頭の牛とライオン	鎌(p45)・田(p54)
373 セミとアリ	渡(六2)・福論(13イ)・遠(一35)・池(初1ウ)・阿(三8)・青2(p2)・綾(p7)・石(一79)・横(p88)・横(p232)・吉2(二p5)・西野1(p1)・三(下八47)・三(下八54)・小池(p3)・小池(p30)・鎌(p25)・山誉(p120)・下(13)・馬(9)・鈴(p4)・鈴(p27)
375 はげ頭の騎手	秋(博p20)
376 自分を膨らませるヒキガエル	池(次17ウ)・阿(二21)・篠1(p34)・西野1(p10)・篠2(p104)・篠3(二)・西寅2(p55)・東1(1)・中村(p111)・鈴(p102)・伴(p32)
378 二つのつば	日(一p14)・大2(p82)・西寅2(p70)・絵伽(47)・鈴(附p16)
384 ネズミとカエル	遠(一6)・池(次34ウ)・阿(二56)・青2(p31)・川1(二4ウ)・石(二8)・西野1(p2)・鎌(p28)・西寅2(p51)・東2(1)・鈴(p98)
390 ハシボソガラスと水差し	遠(一43)・斯2(p9)・沢久(一丙9ウ)・三(上五132)・西寅2(p44)・秋(智p46)・絵伽(16)・小蝶(p115)・馬(22)・鈴(p89)
394 ライオンの子分のキツネ	石(三70)・日(一p26)・西寅2(p14)・鈴(p65)
395 蛇とワシ	中村(p48)
398 カラスと白鳥	少伽(3)
403 獵師と犬	阿(三58)・川1(六3オ)・西寅2(p5)・馬(81)・鈴(p56)
412 川と海	大2(p80)・西寅2(p82)
414 雄牛と母ライオンとイノシシ	大1(p86)・日(二p4)・西寅2(p20)・秋(博p26)・中村(p99)・鈴(p72)
415 犬と鍛冶屋	西寅2(p78)・鈴(p116)
426 キツネとツル	省(3オ)・今(19ウ)・池(次15ウ)・阿(一27)・横(p170)・三(下十一12)・小池(p52)・森江(p54)・東2(4)・少伽(21)・馬(8)・中村(p30)・鈴(p45)
427 キツネとハリネズミ	西寅2(p89)
450 ライオンとウサギ	西寅2(p35)
451 羊の皮を着たオオカミ	大2(p35)
460 ロバの陰	西寅2(p47)・鈴(p92)
468 月と母親	秋(伊p40)
472 高慢ちきなカラスとクジャク	福論(8イ)・遠(一21)・池(次10ウ)・阿(三30)・吉2(二p7)・西野1(p18)・鎌(p39)・西寅2(p9)・秋(幼p10)・小鳥(p5)・少伽(17)・馬(68)・鈴(p60)
473 ウサギに講釈するスズメ	西寅2(p39)・鈴(p87)
476 ロバと羊飼いのじいさん	絵伽(61)
478 羊と犬とオオカミ	西寅2(p93)・鈴(p124)
481 おいぼれのライオンとイノシシとウシとロバ	大2(p102)
486 トンビとハト	小池(p51)・鈴(p43)
490 ワシとカラス	秋(博p14)・絵伽(16)
493 酒つぼと老婆	日(一p16)・西寅2(p75)・鈴(附p18)
499 姉と弟	池(三17ウ)・阿(一31)・川1(二5ウ)・日(一p2)・江1(四p15)・沢久(一丙8ウ)・三(上五73)・西寅2(p94)・中村(p165)
503 ニワトリのヒナと真珠	中川(4オ)・石(一22)・秋(博p10)
507 セミとフクロウ	西寅2(p37)・鈴(p85)
514 王様になったライオン	大2(p55)・西寅2(p7)・鈴(p58)
520 大山鳴動して	石(一35)
521 アリとハエ	池(初30ウ)・阿(四4)・綾(p12)・西野1(p19)・小池(p39)・鈴(p36)
531 雄牛と子牛	中村(p159)
532 老犬と狩人	西寅2(p51)・中村(p73)・鈴(p97)
562a オンドリとキツネ	池(三26ウ)・川1(二1ウ)・石(四88)・三(下十一16)・教散(p30)
563a アンドロクルスとライオン	山義(上19)・横(p150)・森園(十三1)・森江(p93)・中村(p100)
565 尊大な馬	遠(一34)・川1(二3オ)・綾(p14)・大2(p42)・西寅2(p26)・絵伽(84)・鈴(p75)
566 コウモリ	遠(一37)・池(次5ウ)・阿(四41)・川1(五5ウ)・綾(p9)・日(二p7)・和(p71)・西野1(p12)・鎌(p16)・森江(p15)・山誉(p62)・東2(10)・明伽(11)・馬(96)
569 サルの王様	江1(二p13)・西野1(p24)・江2(p30)・馬(87)
581 少年と泥棒	池(初11ウ)・川1(五3オ)・三(上五127)・教散(p13)・西寅2(p33)・鈴(附p8)

613 ネズミ、猫のことを協議する	阿(三38)・川1(三3才)・西野1(p14)・小池(p50)・鎌(p1)・山誉(p81)・東1(10)・少伽(2)・絵伽(18)・馬(63)・中村(p23)・鈴(p41)
619 相手を求めるネズミ	小蝶(p69)
627 ナチンゲールのフィロメラと船頭	池(初5ウ)・石(四30)・石(四31)・小池(p54)・西寅2(p45)・鈴(p48)・鈴(p90)
640a 童と小作人	池(初6ウ)
656 ツバメとスズメたち	福論(17イ)
671 キツネとハト	池(初2ウ)・小池(p36)・鈴(p31)
678 子鹿に教える親鹿	馬(70)
699 オオカミの不運	大1(p58)
702 銅い葉おけの犬	石(二97)・石(四81)・西寅2(p85)・鈴(p119)
719 銅い主に骨を乞う犬	堀(p12)
721 父親と息子とロバ	省(13才)・江1(四p5)
(01)少女と牛乳壺	今(14才)・池(三9ウ)・阿(三14)・石(二99)・三(下十一21)・西寅2(p85)・絵伽(81)・鈴(附p23)
(02)アザミと子ども	省(6才)・深(4)・西寅2(p61)
(03)欲張る子ども	上(1)・遠(二35)・山名(一4)・阿(二44)・川1(二6ウ)・石(一20)・黙(p40)・三(下十一45)・岡(16)・岡(附4)・西寅2(p41)・馬(4)
(04)取り除かれた生け垣	大2(p33)・秋(博p22)
(05)子どもとカエル	福論(1イ)・上(2)・沢井(一1)・遠(一10)・阿(二7)・川1(三6才)・石(一42)・横(p76)・江1(四p3)・黙(p61)・西寅2(p74)・秋(幻p40)・平(p87)・鈴(p114)
(07)ライオンの威を借るロバ	石(四44)・大1(p56)・大3(p12)
(08)盗人と法師	西野1(p20)
(17)太鼓と花瓶	池(三10ウ)
(21)二匹のヤギ	石(四57)・石(四58)・黙(p49)
(22)火中の栗	今(4才)
(24)アラビヤ人を追い出すラクダ	中川(5才)・和(p64)・西野1(p23)
(35)自慢する土器	池(次46ウ)・小池(p56)
(36)馬の裁判	三(下五55)
(37)所要時間を答えるイソップ	生(13才)・馬(27)